産業建設委員会記録

○開催日時

平成30年12月17日 午前9時59分～午後4時46分

○開催場所

第3委員会室

○出席委員（8人）

委員長	石野田 浩	委員	宮里 兼実
副委員長	松澤 力	委員	持原 秀行
委員	上野 一誠	委員	下園 政喜
委員	大田黒 博	委員	帯田 裕達

○その他の議員

議員	井上 勝博	議員	成川 幸太郎
議員	今塩屋 裕一	議員	森満 晃
議員	新原 春二	議員	落口 久光
議員	福元 光一	議員	坂口 健太

○説明のための出席者

農林水産部長	中山 信吾	観光・スポーツ対策監	坂元 安夫
農政課長	今井 功司	観光・シティセールス課長	有馬 眞二郎
畜産課長	小城 哲也	スポーツ課長	花木 隆
林務水産課長	永田 一朗	国体推進課長	田中英人
耕地課長	堀ノ内 美年		
六次産業対策監	小柳津 賢一	建設部長	泊 正人
六次産業対策課長	山元 義一	建設政策課長	須田 徳二
		建設整備課長	吉川 正紀
商工観光部長	古川 英利	建設維持課長	内田 俊彦
商工政策課長	末永 知弘	都市計画課長	伊東 理博
専門職	山内 哲郎	区画整理課長	川畑 稔
施設課長	園田 克朗	主幹兼区画整理グループ長	樋口 武士
専門職	中島 弘喜	入来区画整理推進室長	引地 明吉
交通貿易課長	佐多 孝一	建築住宅課長	福島 和朗
次世代エネルギー対策監	久保 信治		
次世代エネルギー対策課長	田中 道治	農業委員会事務局長	榎 順一

○事務局職員

事務局長	田上 正洋	課長代理	瀬戸口 健一
議事調査課長	砂岳 隆一	主幹兼議事グループ長	久米 道秋

○審査事件等

審 査 事 件 等	所 管 課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	農業委員会事務局
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	農 政 課 林 務 水 産 課 畜 産 課 耕 地 課
(所管事務調査)	六次産業対策課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	建設政策課 建設整備課
議案第136号 薩摩川内市道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例の制定につ いて 議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	建設維持課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	都市計画課
議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第156号 平成30年度薩摩川内市天辰第一地区土地区画整理事業特別会計補 正予算 議案第157号 平成30年度薩摩川内市天辰第二地区土地区画整理事業特別会計補 正予算 (所管事務調査)	区画整理課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第145号 平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計 補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第158号 平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計 補正予算 (所管事務調査)	入来区画整理推進室
議案第137号 薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定について 議案第138号 薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定について 議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	建築住宅課
議案第133号 財産の取得について 議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	商工政策課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	交通貿易課 次世代エネルギー課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 請願第6号 「リゾートホテル甌島館」における薩摩川内市との未解決事案に関 する請願 (所管事務調査)	観光・シティセールス課
議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	スポーツ課
(所管事務調査)	国体推進課
議案第134号 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター条例の制定について 議案第135号 観光船かこの指定管理者の指定について 議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算 (所管事務調査)	施設課

△開 会

○委員長（石野田 浩）ただいまから、産業建設委員会を開会いたします。

本日の委員会は、お手元に配付の審査日程により審査を進めたいと思いますが、御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、お手元に配付の審査日程により審査を進めてまいります。

ここで、傍聴の取り扱いについて申し上げます。

現在のところ、傍聴の申し出はありませんが、会議の途中で傍聴の申し出がある場合は、委員長において随時許可いたします。

△農業委員会事務局の審査

○委員長（石野田 浩）それでは、まず農業委員会事務局の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○農業委員会事務局長（榊 順一）第3回補正予算の予算に関する説明書の48ページをお開きください。

6款1項1目農業委員会費の農業委員会管理運営費の増額は、10月人事異動に伴う職員給与費の調整でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内

市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、議案第152号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○農業委員会事務局長（榊 順一）予算に関する説明書（第4回補正）の27ページをお開きください。

6款1項1目農業委員会費の農業委員会管理運営費の増額は、給与改定に伴う職員給与費の調整でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○農業委員会事務局長（榊 順一）所管事務について説明をいたします。

産業建設委員会資料の農業委員会事務局分をごらんください。

平成30年9月から11月までの定例の報告をさせていただきますと思います。

1ページをごらんください。

1項目め、農業委員会委員の主な活動として、毎月の農地転用関係の現地調査の実施、総会に提案する議案や委員会の運営上の連絡・調整を行う運営委員会の開催及び農業委員19名、農地利用最適化推進委員21名が出席して総会を開催し、議案等の審議を行っております。

2項目め、農地法に基づく許認可事務について、これは、2ページまでは毎月の処理件数でございます。

3ページをお開きください。

(4)は、9月から11月までの3カ月間の集計でございます。その下、(5)は、本年度4月からの累計で、324件を処理しております。昨年同期と比較して61件の増となっております。

4ページをお開きください。

太陽光発電施設に係る農地転用実績で、11月末で14件の申請が許可されております。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありました。これを含め、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（上野一誠） 農業の振興という観点からいけば、行政と農業委員会と、JAあたりがしっかりと連携をとって、一つの農業振興に努めていくと。農業委員会も法的な一つの農地転用を含める中においては、農地転用の活性化等々を含めて、大きな役割を担っているというふうに思うんですが。

そこで、農業委員会として、今この報告を受けたんですけども、本市も作物、耕種別、いろいろあると思うんですが、農家の方々から土地の確保とかいろいろと、連作がきかなかつたりとか、いろんなそういう御要望等々がまた農業委員会に寄せられて、また一方では農業委員の皆さんがそういうところにどうかかわっていくのか、農家の手伝いも一方ではしていく役割を担っていらっしゃるというふうに思うんですけど、そういう状況を何かあったら、課題も含めて教えてもらえますか。

○農業委員会事務局長（榎 順一） ただいまの御質問ですけれども、現在も農業委員会は、鹿児島県下全市町村そうなんですけれども、農地の「貸したい」「借りたい」総点検という活動をやっております。7,000戸近くの全部の農家を農業委員、推進委員が個別に訪問いたしまして、現在アンケートをとっております。それは、今耕作している農地をどういうふうにしたいのかということで、それぞれ農家の方々に意見を聞いたりしてございまして、使える農地を使えるうちに担い手に使っていただくような手だてができないかということで、我々は一生懸命、農政課といろいろ連携しましてやっております。

いろんな作物については、特にごぼう等については連作障害とかあって、例えば耕作する面積以上に必要な面積を確保しなきゃいけないというの

がございまして、そういった中で使える農地をいかに確保してそういった農家の方、担い手の方に集積していくかというのが大きな農業委員会の今課題となっております。

また、遊休農地の解消につきましても、同じように、この集積と連動した形でやっております。そういった耕作できなくなる予防ですか、耕作できなくなるまでに耕作したい方々に集積していくというのが一番今課題として取り組んでいるところでございます。

状況的には、以上でございます。

○委員（上野一誠） ありがとうございます。一応、意見、要望として。

今、課長が言われたことが本来あるべきということで、大変そういう形が生きるようにしていただきたいと思います。高齢化になっていくと、荒廃地、あるいは土地改良を含めてですけどあると思うので、連携をとって十分そういう農家の皆さんの要望に応えるような役割をさらにまたやっていただきたいということを意見、要望として申し上げておきたいと思います。

○委員長（石野田 浩） ただいまの意見、要望をしっかりと受けとめて頑張ってくださいと思います。

○委員（持原秀行） 農地法の4条申請、5条申請、この指導のあり方というのをお聞かせいただきたいんですが。

要は、きちっと、今、何年か前からかわりませんけれども、農地転用をする場合に隣に耕作地とか農地があった場合に、昔はどういったものを転用しますので御了解くださいという一言お話があったわけです。しっかりと印鑑もついて、そしていろいろ条件を出してということをして、それで健全に、またその後も、隣に転用がされた後も農地を活用して農業を続けるということができてきたんですが。

今現在、そういったことが、隣接農地に対しての承諾とか一切ないものですから、急に知らぬ間に何が建つんだろうかということになったときに、住居が建ったりしますと、優良農地であっても、機械を持たなければ、農業をまいたりというのも、今無人ヘリにお願いしているというそういう状況なんです。そうすると、隣に何か建つかかわらないというときに、急に宅地になっちゃったと。そ

したら、もうその建った方がまいてくれるなどということ言われたら、その農家は機械もなければ、必然ともう放棄をしなければならぬ、耕作放棄地になっちゃうという状況になるんです。

ここのところをもう少しやらないと、農政課のほうとも、農地を荒らしちゃいけない、ちゃんとつくらないかんといいながら、逆に農業委員会という立場上、農地を守らないかんと立場に私は立つべきだと思うんです。そうすると、きちっと事前に転用を出す前に、隣接農地の方に相談をして、こういうのをつくりたいんですがということがあれば、きちっとそれであれば、農業する上ではこういうことも、時期的には農薬をまいたり、刈取りのときにはちょっとほこりがしたりしますが、それでも了解をくださいというような話し合いがなければ、もう後から建てた人が強い気持ちで出られると、農業機械とかそういうのがなければもう耕作放棄地になってしまうんです。

だから、私はそのところをしっかりと、転用申請を受け付ける段階あるいは受けた段階でも、許可を出す段階でも、どうにかそういうことを指導していただかないと、ますます農政課のほうは農地はつくらないかんといいながら耕作放棄地をふやしてしまうというこういう農地転用のあり方でいいのかなという気がするんですが、そこらあたりの考えを教えてください。

○農業委員会事務局長（榊 順一） 今、持原委員のおっしゃったとおり、そういう状況についてはきちんと対応しなきゃいけないというふうに考えております。

今、4条、5条の転用する申請に来ていただいている際は、ほとんど行政書士さんがいらっしゃるわけですが、境界の問題それから流末の問題、いろいろと隣接地に影響を与えることがございますので、これらについては被害防除計画ということできちんと手続をしておりますけれども、口頭でも行政書士さん等にはきちんとそういった隣接とのトラブルがないようにということで、現在も指導をしておりますけれども、まだまだそういうような状況があるということでございますので、さらにその辺をちょっと強化して、局内でも検討をしっかりと、守るべき農地は守っていくというふうなスタンスできちんと対応していきたいというふうに考えます。

○委員（持原秀行） いわゆる行政書士さんが持ってこられても、当該の転用者には伝わっていないんです。であれば、行政書士は、とりあえず書類上の中で行政当局の官庁のほうに出す書類をつくるだけですので、あとは転用された方との関係なんです。だから、その農地をずっと耕作している人は、逃れられん立場なんです。

ですから、そのところの転用者との橋渡しというんですか、そのところを私は言っているんです。だから、幾ら行政書士を指導しても一緒です。そこに転用されて住まわれる方との信頼関係がないと、隣の農地はもうつくれないんです。私はそこを言っているんです。

だから、行政書士に幾らそう言っても、行政書士は、例えば建築会社から受けて転用すれば、申請者とも全然面識もなくてやっちゃうというのが今の状況じゃないですか。だから、私はしっかりとその転用者に対しての御指導方をやっていただかないと、この耕作放棄地がふえていくというのは解消はできないんじゃないかと。もう当然、こういう転用がまかり通っていけば、もう農地はつくれなくなります。新たにそういったような機械を買ってとかと、そこまでもしたくないとなれば、必然的に農地は荒廃していくんです。だから、そういうところをきちっと指導をしていただきたいと。

だから、私が言いたいのは、代書人である行政書士ではなくて、転用者本人にきちっと向かい合った指導方法をしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

○農業委員会事務局長（榊 順一） 今御指摘の転用者本人への指導が不足しているということでございます。

実際はそういうことで、直接、その転用者本人にあだこうだ、こうしてほしいということは現在言っておりません。

実際、広報紙の中で、農業委員会だよりとかという中で、いろいろ全体的に周知はしておるんですけれども、具体的に転用者に対しての指導、お願いについては、局内で検討させていただきたいと思っております。

○委員（持原秀行） これは、やはり農政課のほうとも、農政課のほうは一生懸命農業を推進をしていかないかんといいながら立場の中で、私は農業委員

会の立ち位置というのがちょっと疑問に思っているんです。農地を守るのが農業委員会じゃないですか。そうでなければ、農業委員会の役割はないです。

だから、そういう意味では、もう少し言うところを含めた中で、持ってこられる代書人の方とかにも、そういう頼まれた転用者の方にもきちっとそういうことをやって、今までつくられていた農地で農業が継続できるような、そういったような態勢を強く私は要請したいと思います。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）できるだけ簡潔にいたしますので、よろしく願いいたします。

今アンケートをされていて、私のところに相談があって、自分は土地を荒らしたくはないと。しかし、年をとってきてどうしてももう耕作できないところがあると。そういったときに、役所のほうから書類が送られてきてアンケートが来た。何とかせんと増税するぞと書いてあると。これはどういうことかという相談があったんです。それで、私もその文書をよく見たら私のところにも来ていたわけですけども。

何かおどしのような感じがするわけです。何とかしないと増税するぞと。こっちは何とかしたいわけです。農地中間管理機構というのがあって、そこにチェックをすると、それで別に増税されることはないということで、電話ではそういう対応であったわけですけども。

ただ、実績としてその中間管理機構にチェックをしたら誰か紹介していただいて農地を使っただけということができればいいんだけど、実際はそういうことは余りできていないというお話なんです。これは、中間管理機構に丸をすれば、確実に、例えばおたくの土地を使いたい人がいるんだけどという話が出てくるもんなんです。そういう実績はあるんですか。

○農業委員会事務局長（榊 順一）ただいまのアンケートとおっしゃった件については、農地の利用状況調査ということで、毎年夏の8月のころに実施をしております、その農地の状況を把

握しました後に、荒れた農地については意向調査ということをしておりまして、それを文書で農家の方々に発送しております。

その内容のことなんですけれども、このアンケート調査というかこの意向調査の中での農地中間管理事業に丸をつけられた方については、先々、中間管理機構に要望として上げていくんですけども、実際に相手が見つからないとなかなかその中間管理事業としての取り組みはできないということでございますが。

この意向調査以外に、農政課のほうで中間管理事業を持っておりまして、その中では、推進委員さん初めいろんな関係の方々が、農業委員会も含めてなんですけれども、借り手を見つけながら中間管理事業のほうに契約を結んでいるという実績はございます。

○議員（井上勝博）文書の書き方を、あれは恐らく全国共通なんだろうとは思いますが。だけど、何とかしないと固定資産税を増税するぞという、何かそういう書き方がされているものですから、やっぱりちょっと不親切だなと。もう本当にびっくりされて電話されてきたわけですので。

今後、そこら辺、意見を出すなり、また別の文書で、わかりやすい文書を添付するなりしていただきたいというふうに思います。

○農業委員会事務局長（榊 順一）ただいまの御要望ですけども、農業委員会のほうもわかりやすく文書で書いて、課税強化の手法についてはこうなりますということではしておりますけれども、まだまだわかりづらいということでございますので、その辺はまた来年度の課題として取り組んでいきたいと思っております。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、農業委員会事務局を終わります。

△農政課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、農政課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩） それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○農政課長（今井功司） それでは、予算に関する説明書（第3回補正）の48ページになります。

まず、6款1項2目農業総務費でございます。

説明欄をごらんください。

今回の減額の理由は、農業総務費におきまして平成30年10月の人事異動に伴い給与費等を減額補正するものであります。

続きまして、その下、3目農業振興費でございます。

説明欄をごらんください。

増額の理由は、農業振興育成事業費におきまして、農地中間管理機構に農地を貸し付けた地域及び個人に対します機構集積協力金につきまして、地域や個人との協議が整い、県からの計画承認が見込まれる状況になりましたことから補正をお願いするものでございます。

ここで、農地中間管理事業の概要につきまして説明させていただきますので、産業建設委員会資料、農林水産部の1ページでございます。

1の農地中間管理事業の趣旨であります。耕作放棄地の拡大などの課題を解決するために、農地中間管理機構に対し農地を貸し付けた地域や個人を支援することで、担い手への農地集積・集約化を推進することを目的とした事業であります。

2の事業内容であります。地域に交付される協力金として1種類と個人に交付される協力金として2種類の計3種類の機構集積協力金が交付されます。

まず、2の（1）の地域集積協力金は地域に交付される協力金で、地域内の話し合いで、まとまった農地を担い手に集積する場合の協力金であります。

（2）の経営転換協力金は個人へ交付される協力金で、農地や経営縮小する農業者や農地の相続人で農業経営を行わない農業者が農地を機構へ貸し出す場合の協力金であります。

（3）の耕作者集積協力金も個人に交付される協力金で、機構の借り受け農地に隣接します農地などを機構を通じて貸し出す場合の協力金であり

ます。

それぞれの交付金の交付対象地域、対象者及び交付要件、交付単価につきましては、記載のとおりであります。

続きまして、2ページをごらんいただきたいと存じます。

3には、今回の補正予算に係ります要望状況をお示ししております。

まず、地域に交付されます地域集積協力金では、水引東部地域と樋協町倉野地域の2地域におきまして地元協議等が整ったもので、協力金の交付額は、①のとおり96万5,600円となります。

次に、経営転換協力金では、協力金の交付金額は②のとおり263万6,305円となります。

耕作者集積協力金につきましては、交付金額は③のとおり8万6,880円となります。

表中、この三つの交付金の合計金額は約368万9,000円となり、不足分の338万9,000円を今回の補正予算で増額しているところでございます。

予算に関する説明書の48ページにお戻りいただきたいと存じます。

5目園芸振興費であります。

説明欄をごらんください。

減額の理由は、本年度、県主催で開催されました日本学校農業クラブ全国大会に係ります市町村負担金が執行不要となりましたことから、その全額を減額するものであります。

次に、歳入につきまして説明いたしますので、24ページでございます。

16款2項4目1節農業費補助金の説明欄の機構集積協力金を農地中間管理事業に係ります機構集積協力金の増額に伴い増額するものであります。

続きまして、26ページでございます。

17款2項1目不動産売払収入におきまして、公共事業の用に供する予定がないと判断いたしました祁答院町内の農政課所管の市有地を公売により売却したことによります土地売払収入を計上するものであります。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めま

す。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○農政課長（今井功司）予算に関する説明書（第4回補正）の27ページになります。

6款1項2目農業総務費でございます。

説明欄をごらんください。

今回の増額の理由は、農業総務費において給与改定に係ります給与費等を増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○農政課長（今井功司）それでは、本年度策定作業中でありまして計画に関しまして説明いたしますので、産業建設委員会資料を御準備いただきたいと思います。

委員会資料、農林水産部の3ページをお開きください。

本年度策定作業中でありまして第3次薩摩川内市農業・農村振興基本計画及び第2次薩摩川内市六次産業化基本計画の策定状況につきまして説明させていただきます。

まず、1の策定の目的にありますとおり、本市の地域を生かした農業の方向性を明確にし、計画的かつ効果的な投資と生産者、関係団体が一体となった施策を構築するために農業・農村振興基本計画を、また6次産業化の促進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的に六次産業化基本計画を策定するもので、それぞれの計画期間を2019年度から2023年度の5カ年間とするものであります。

検討の経過でございますが、2にありますとおり、生産者へのアンケートや薩摩川内市農林水産政策審議会での意見、関係農業生産者との意見聴取を踏まえまして計画内容の検討を始め、現在、計画の根幹となります骨子案を取りまとめたところであります。

今後の策定作業であります、3にお示ししてありますとおり、具体的な施策を明文化した計画案を今後策定し、パブリックコメントや3月議会におきまして産業建設委員会における計画概要の説明、また農林水産政策審議会からの答申を経て、来年3月に計画を決定したいと考えております。

農政課からは、農業・農村振興基本計画につきまして説明させていただきますので、A3の資料になります。

あけていただきまして、A3資料、左側4ページの上段をごらんいただきたいと存じます。

基本理念であります、担い手の確保・育成、発掘等による農業・農村振興の基礎となる人・組織づくり・耕作放棄地や鳥獣被害の増加に対します継続的対策の展開、担い手への技術や機械・設備導入等への支援によります農畜産物の品質や魅力の向上・六次産業化の推進によります本市の経済活動の発展を目標といたしまして、「つながる・支え合う、誇りを持てる農業・農村の実現～農畜産業が元気なまちづくりをめざして～」を基本理念としているところでございます。

次に、4ページの下段になります。本市の農業の現状を踏まえまして、農業・農村振興に向けた課題であります、農業の後継者や担い手の確保・育成、耕作放棄地の発生防止、有害鳥獣対策、

自然災害に強い農村環境づくり、質の高い農畜産物を安定して生産するための産地づくり等が必要であると、5項目に整理したところであります。

資料の右側5ページをごらんいただきたいと存じます。

これら5項目の課題に対応するため、本市の農業振興を展開していくに当たって五つの基本方針と基本方針に基づき実施いたします基本的施策を取りまとめたものであります。

一つ目は、新規就農者、経営意欲のある農業者、集落営農組織、農業法人等に対する育成支援などの担い手づくり対策を、二つ目は、耕作放棄地、担い手への農地の集積・集約化、鳥獣被害対策、生産性の向上等によります農業生産基盤対策を、三つ目といたしましては、市の重点品目や地域性を生かした農畜産物の生産振興、雇用・人材確保対策、スマート農業の導入に向けた対策等の産地づくり対策を、四つ目は、安全・安心な農畜産物の生産推進や家畜防疫体制の徹底などの販売、食育・地産地消対策を、五つ目は、販路拡大や消費者ニーズ等に対応した商品開発促進などの6次産業化対策の五つの基本方針によりまして、農業振興策を展開していくことを想定し、現在、計画を調整する予定としております。

なお、基本方針5につきましては、六次産業化基本計画と連動いたしますので、六次産業対策課の審査の中で説明をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありました、これを含め、これより所管事務全般についての質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（下園政喜） 鳥獣被害対策のことでございますが、それに関して、ジビエ料理を食べましようと言われてるんですけども、ジビエ料理を使ってお客様に出す場合は、猟師から買って来た肉を使ったらいかんと、正式な処理場でさばいたやつをせいという指示があるみたいで、料理店が出すことができないと。もし出すとすれば、阿久根市に「いから阿久根」ありますよね、あそこからしか買うことができないということで、物すごく高価な肉になってしまって一般の客には出せないということが発生しているみたいでございませぬ。

そこで、薩摩川内としては、いかくらは個人で

つくった施設と言われますが、ああいうのをつくってもっともっとジビエの肉が出回るようにする施策の考えはないか、お聞きします。

○農政課長（今井功司） 今現在考えておりますものは、これまで鳥獣害被害対策といたしましては、現在展開しております入らせない対策の電気柵とかの、それに対します支援と、さらに地域ぐるみで農地に鳥獣を引き寄せないための対策に対します地域での考え方を検討している。計画とすると、そういうのを進めていこうと考えているところでございます。

ただ、その中でジビエ料理に対しますものにつきましては、現在、その計画上ではまだ検討はしておりませんが、所管が林務水産課でございますので、林務水産課と調整しつつ、検討する必要が出てくる場合も想定されますので、そこにつきましては状況に応じて検討してまいりたいと思っておりますが、今計画上では入らせない対策と引き寄せない対策の住民説明等を徹底してまいりたいと考えているところでございます。

○委員長（石野田 浩） 今の下園委員の質問に対しては林務水産課で。

○林務水産課長（永田一郎） ジビエのお話につきましては、前、一般質問のほうでもいろいろと出ていたと思います。

現時点におきまして、野生鳥獣の食肉、ジビエ、加工施設の計画については、薩摩川内市としては計画は持ってございません。

今後検討するには、認知度の向上を図るとともに、あと市内外の需用を把握する取り組みを進める必要がございます。また、捕獲したイノシシ、あと鹿の解体処理技術など、国と県のガイドラインに沿った衛生管理体制の構築も不可欠であるという形で考えてございます。

こうした中、我々の薩摩川内市については六つの猟友会がございませぬ。そちらのほうともいろいろと有害鳥獣の部分での食肉、ジビエの話もいろいろと協議をさせていただいておりますが、猟友会のほうからつくりましょうかという話には今のところはなっておりませぬ。

あと、昨年からちょっと問題になっていたのが、とれた鹿だったりとかイノシシ、その部分についての処分の方法、どうにかならないのかということで、その部分については市のクリーンセン

ターのほうとも協議しながら、クリーンセンターとあと所管である環境課と調整しまして、有害鳥獣の駆除の個体数の残渣のごみ出しルールについて協議を行ったところです。

そういう形で、クリーンセンターのほうとしてもその部分についてはそのごみ出しルールを守っていただければ、その一部を一応受け付けますという形で協議させていただいたところです。

このジビエの加工施設、処理につきましては、また引き続き猟友会及び関係機関と連携しまして、あと先進事例の視察、あと今後の動向、ジビエ施設の可能性などについて研究をしてまいりたいと、今のところは考えております。

○委員（下園政喜）なぜこういうことを言うかといえば、テレビで一生懸命、ジビエを食べましようと言っています。テレビでジビエを食べるシーンが出たところに、保健所が行って、この肉はどっからとったかといって調査が入っているみたいなんです。だから、テレビでもう放映してほしくないというぐらい言われるんですが。

そういつて、食べる食べると、肉をいけんかせんかと言って、処理した肉の捨てる部分は産業廃棄物でどうにでもなると。しかし、買ってきて料理をするところはないじゃないかと。阿久根市まで行って買ってこないかんのじゃないかと。だから、誰かがすれば、そしたら誰かが、猟友会じゃなくても誰かがそれを業をしてすれば、例えば東郷に給食センターの廃止したのが残っていますよね。ああいうところを貸してもらってするとすれば、市としてはそういうのに対して補助金を出したりすることは検討できますか。

○林務水産課長（永田一朗）今、先ほども説明しましたが、猟友会の方々とあわせて、あと民間の方々からもそういう形のお話を今のところは聞いていない状況ですので、またそういうお話等々があれば、その部分について、薩摩川内市、あと関係課、機関、いろいろと、猟友会も含めて検討しないといけないのかなと考えているところです。今のところは、そういうお話は聞いておりません。

○委員長（石野田 浩）ちょっと所管が違うんで、後でまた。

当局の皆さんも、今、廃棄するということだけでなく、利用するという方法も、先進地等と

言われたけど、そういうところを視察等をして研究をしていていただきたいと思います。

また、下園委員は、その辺のところはまた後で。

○委員（上野一誠）今、当局のほうから、次の振興計画の基本理念、そして農業振興に向けた課題、それに伴って基本方針、基本施策というのを一応説明をされました。これが、また最終的には3月において最終答申があり、まとめていかれるということだというふうに思います。すばらしい、一応、骨子案だというふうに理解はしたいというふうに思っています。

その中から、今、本市の農業の生産額というのは、大体160億円から70億円というふうに認識しておりまして、その中で、畜産が100億円から少し上がるのかなと。そして、きんかんぐらいが2億数千万円いくのかな、あるいはお茶も1億5,000万円ですが、いろいろもろもろのそういう一つの生産額に至っていると思うんです。

したがって、ここらの基本計画、振興策は、どれを抜いても人の問題、担い手の問題、いろんな課題等をぶつけているので、基本的には行政がどうかかわりをこの農業振興にかかわっていくのかという、いわば行政としての受け皿、人の動き、そういうことが問われるというふうに思っています。

しがたって、そういう行政は行政としてどのようなかかわりを持ってこの振興策に取り組んでいくかということは、行政も本当に農家の現場に立ち入って、耕種別いろいろあるけど、現場に入り込んでいかないと、ここの立派なこういう骨子案も、骨子もなかなか進んでいかないとということがあると思うんです。それぞれに担当部署では尽力をいただいているとは思いますが、これを実行していくために、現職員体制の中で課題と言えるもの、専門職を含めて、本当にこれを進めていくに当たっての受け皿という、職員体制の考え方を教えてください。

○農政課長（今井功司）体制につきましては、その現場といいますか、農業者との直接いろいろお話をするところ、農業振興グループのほうでの指導の際にいろいろ状況も確認しているところまでございまして、今、現時点では、今後も情報の確認を充実したり、またその情報から担い手確保につなげていきたいという考え方を基本的には持つ

ております。

ただ、人事異動等、人材確保の関係もございませぬので、現時点では現体制の人員で、より情報収集と効率を高めながら進めてまいりたいと考えているところでございます。

○委員（上野一誠） 力のない答弁をいただいて、ありがとうございました。

いわば、本当に、耕種別に各部署がしっかりと対応をしていくためには、仮にきんかんだったら、あの職員に聞けばきんかんはもうすごい詳しいと。もういろんな、剪定を含めて、あの職員がいるからやっぱりいいと。あるいは、畜産であれば、いろいろこうこうだとか。あるいは、いちごとか、いろんなそういう一つの専門的な知識を持つ職員が、その部署の中にどのぐらい育成ができていくかと、異動はあるんだけど。本当に農家以上に勉強して、我々の土を見てくれと、それはこうしたら、もうちょっとこういうものを配合しろ、含めてこういうものをされなければだめですよ、農家を指導できる職員がどのぐらいいるかということ等も含めると、やはりその域に入っていけないと、それにやっぱり現場の声がわからないといけないうことがあるので、薩摩川内市は農業を軸にしていけないと、なかなかまちは活性化しないと。農業が元気を出さないと、農林水産業が元気を出さんと、地域は活性化しないということが原点にあると思うんです。

今の農家だって、荒廃地をしたのは、それこそ畜産の方々が飼料をつくり、あるいは水稻、稲作をしながら、そういう形でそれを活用しないと、なかなか農地はさらに荒廃化していくことはもう見え見えなんです。

したがって、そういうところからすると、職員の皆さんが本当に真剣にやる体制というものは、この振興計画、立派なものはあるんだけど、これが具体的にどう動くかということが問われるというふうに思っています。

J Aあたりを非難するわけじゃないけども、技術的な指導は本来であれば、J Aあたりがしっかりと農家に入り込んで指導、営農確立をさせんやいかんわけ。ところが、今はそれを期待するほうがおかしいぐらいに行政に頼り切っている、そういうところが否めないと思うんです。

したがって、そういうことからすると、職員の

皆さん方もいろんな限られた人間であるけれども、やっぱりそういう意識を高めてひとつやっていたきたいということを意見、要望として申し上げておきたいと思います。

○委員長（石野田 浩） 意見、要望ですけども、委員が言われるのは、絵に描いた餅になっちゃいかんよと、実際にそれをどういうふうに行っていくかということだと思わすけれども、部長何かありますか。

○農林水産部長（中山信吾） 今、上野委員からおっしゃられた指摘、そのとおりでございます。

まず、職員体制につきましては、今、正職員の専門技術員、それから不足する分については、市のほうでは専門的知見で活躍された方を嘱託員として雇用しながら農家の要望に添えているところでございます。

この体制を維持、拡充しながら、市としては取り組みたいと思っておりますし、また市だけではどうしてもマンパワーが足りないところがございませぬので、そこについては北薩地域振興局、それからJ A等とも連携を図りながら、共通認識のもと農家指導、農家育成等々に取り組んでいるところでございます。

また、一方では、J Aのほうも今後専門的技術員をふやしていきたいという意向もございませぬので、その動向等を見ながら、J Aさんのほうでそういう専門的技術を持った方々がふえていくことによって、今まで以上に農家指導等々についても充実していくのかなというふうに考えております。

市としましては、これまでどおり、課長が申したとおり、より効率、効果的な指導体制等についても関係機関と連携を図りながら検討して行って、一人でも多くの農家の御要望に添えていくように努めてまいりたいというふうに考えております。

○委員（松澤 力） 今説明があった振興計画については、ぜひ前に進めていただきたいと思っているんですけども。

一般質問の中でも取り上げさせていただいた農産物の直売所の件だったんですけども、本会議でも提案させていただいた愛媛県今治市とJ Aおちいまばりさんが取り組んでいらっしゃるさいさいきて屋ということで取り上げさせていただいたんですけども。

私としては、この農産直売所の充実ということをしごく大事な事かなと思っております。小規模であっても大規模にやっつけらる方も、地元で農産物をしっかり出せるところがあって、またそこでカフェとかデザートとか食堂とか、地元の商品を使って商品開発もまたしているということで、それで県外からの観光客の方も直売所に来ているということで。地元の農業活性化と、また担い手の育成ということも含めて、この農産物の直売所をより充実させて、高齢者の農業の方も収入につながって、また観光客もふえていくというような形に何とか持っていけないかというように考えておるんですけども。

この前も答弁でいただいたとおり、今の直売所のあり方も含めてより改善を進めていかれるということもあるかと思うんですけども、より直売所の充実ということで取り組みがあれば、御答弁いただけたらと思います。

○農政課長（今井功司） 直売所の運営に関します今後の運営のあり方、考え方についての質問だと考えておりますが。

市内8カ所に、今、農産物の直売所がございます。現状といたしまして、直売所間の連携というのがなかなか、まだ全体的に構築されていない状況であります。そのことによりまして、あるところに行けばこういう農産物がありますが、その品ぞろえの不ぞろいという状況も見られるところでありますので、まずは直売所間での農産物の品ぞろえといいますか、売っている品を幅広くできるように、連携を図れるようにして、農産物のPR、地産地消のほうにつなげていきたいと考えております。

なかなか、施設を整備するのにつきましては、負担等もございますので、まずはソフト面でその連携を図って、どこに行っても市内産の農産物を買えるような体制を整えていけたらなどは考えているところでございますが、まだそこにつきましてはどのような手法をとっていくか、今検討をしていきたいと考えているところでございます。今、ソフト面での支援といいますか、そこを考えているところでございます。

○委員（松澤 力） 今取り組みを、直売所間の連携ということも取り組んでいかれるということであったと思います。

先ほど上野委員からもありましたけれども、JAさんともそのあたりの連携もしっかりしていただきながら、ぜひより直売所の魅力化というか、人が集まるような形でより改善を進めていただけて、また農業振興ということでもつなげていただけたらと思っておりますので、ぜひ取り組みをよろしく願いいたします。

○委員長（石野田 浩） ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博） 済いません、簡単に。

ソーラーシェアリングというのがありまして、この計画の中には余り入っていないのかなと思うんですが、農地はそのままにして上のほうで太陽光で電気を発電すると。30%の電気で発電して、70%の光が作物に行くと。かえって、100%よりも作物の育ちもいいし、電気もできて収入になると。これを農水省も推奨しているんですけども。

こういったシステムが広がっていけば、農業収入のほかにもそういう収入もふえてくるわけですので、農地の保全という点でも非常に有効だというふうに思うんです。これ、ぜひ、この計画の中で検討できないかということをお尋ねしたいんですけど。

○農政課長（今井功司） まず、今現在、国、民間等で進められております一つの考え方で、基本方針3の④のところにスマート農業という考え方がございます。これにつきましては、ICTとかAIの先進の技術を使いまして作業の効率化を図ったり、作業の軽減とかということによりまして品質を高める、反収を高めるような研究が進められているところでございまして、こちらに表記いたしましたのは、まだ実証段階いろいろ研究が進んでまいりますので、市としてもそれが非常に効率的な手法が開発される場合につきましては、それを本市の農業の方にどのように導入していく、あり方を検討していきたいということで、このスマート農業の実現に向けた取り組みについて支援をしたいという意味で、こちらのほうに項目で書いてございますので。

恐らく、井上議員の言われるシステムも確立さ

れていけば、作業の効率化とか経費の削減とか収入とかにつながるものであれば、そういう有効的なものであれば、どんどん導入に向けての支援をちょっと検討していきたいなと考えているところでございます。

○議員（井上勝博）ソーラーシェアリングという言葉覚えていてください。よろしく願います。

○議員（成川幸太郎）新しい振興基本計画ができるということで期待をしたいんですが、以前から耕作放棄地についてはいろんな質問が本会議にも出ていました。今回も取り上げてあるんですが、継続的に発生抑制に努めることが必要である。耕作放棄地発生の未然防止等に向けた環境の整備を進めるということはどういうことかというところをどうやって生かしていくかということはどういうことかというところは考えていらっしゃる。

今、実際に耕作放棄地になっているところをどうやって生かしていくかということはどういうことかというところは考えていらっしゃる。

○農政課長（今井功司）議員言われますとおり、耕作放棄地の対策については非常に大きな課題となっております、議会等の議論の中にもその対策について進めるべきだという御意見をいただいているところでございますので、今後、まず発生を防止する未然防止につきまして、いろいろ支援をしていければなと考えているところでございます。

現在、耕作放棄地となっております農地につきましても、水の確保の関係とか、土地の条件でなかなか耕作が難しいことから耕作放棄地につながっているところもございまして、それらの状況をいろいろ考えながら進めていきたいとは考えているんですけれども、今現在耕作放棄地になっているところに対しては、具体的にこれということ、今後の検討課題とさせていただきます。

○議員（成川幸太郎）やはり、耕作放棄地の発生を防止するというのも必要ですが、あわせて、やはり今耕作放棄地になっているところをどうやって生かせるかということも研究を重ねていただきたいと思います。

その基本3に出てくる耕畜連携というのがちょっと意味がよくわからないのですが。

実は、きょうの委員会のためじゃなくて、先日講演会があって、農業に詳しい先生が話をされた

んですが、耕作放棄地を畜産に活用したらどうかというようなことも出ていましたんで、そういったことも含めながら耕作放棄地を生かすという方策も考えていただければと思います。

○農政課長（今井功司） 済いません。私、先ほどの答弁で、今後の計画のあり方についての考え方を述べさせていただきましたが、本年度におきまして、実際、耕作放棄地に今なっているような条件をクリアするための予算というの確保いたしております。

それに対しまして、例えば水の確保が難しいところに水道の改修をしたりとか、そこに農作業をするに当たって農道が若干作業路が狭いとかというものに対したり、ぬかるんだりというために舗装をしたりとかいうようなことに対します補助金につきましては予算を確保いたしまして、支援をしているところでございます。

相対的に大幅な補助金ではございませんが、予算額といたしましては150万円ほど確保して、そこには取りかかっているところでございます。

また、耕畜連携につきましても、農地につきまして、畜産の業から発生いたします堆肥とか、あと飼料、食べるほうの飼料のほうのWCSの作付のほうを振興するとかというような形で、耕畜連携のほうには今後も進んでまいりたいと考えてございます。

以上、私、説明が不足しておりましたので、済いません、追加で説明させていただきました。

○委員長（石野田 浩）成川議員、よろしいですか。

○議員（森満 晃）この振興計画の策定の審議について、この審議会のメンバーだとかこの人数だとか、基本的なことを教えてください。

○農政課長（今井功司）この農林水産政策審議会につきましては、本市の農林水産業の施策に関しましていろいろ御意見をいただくために設置している組織でございます。

構成メンバーといたしましては、農業委員会の代表の方、また農林漁業の団体から代表として選出いただいているメンバー、それと生産団体につきましてもJA関係、それとJAの各部会がございまして、品目的に部会がございまして、各専門部会のほうからの代表の方、それと生産者の認定農業者の方と、計19名のメンバーで構成

して、御審議をお願いしているところでございます。

○議員（森満 晃）ここにこういった意見聴取会とかあるんで、その中で若い担い手だとかそういった意見の吸い上げる場というのはこういう聴取会ということによろしいですか。

○農政課長（今井功司）この資料にあります意見聴取会につきましては、その審議会のメンバーと実際農業を営まれている方の代表の方に集まってお聞きいただきまして、いろいろ現状とかの意見を聞かせていただいたところでありまして。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、農政課を終わります。

△林務水産課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、林務水産課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○林務水産課長（永田一朗）歳出予算のほうから御説明いたしますので、第3回補正予算書の51ページをお開きください。

6款4項1目林業総務費でございます。

説明欄をごらんください。

これは、10月1日付の職員の人事異動に伴う給料等の減額補正でございます。

次に、その下の6款4項2目林業振興費であります。

説明欄をごらんください。

これは、林業振興育成費の消耗品費と森林整備・林業木材産業活性化推進事業補助金であります。

内容について概要で説明いたしますので、概要の5ページをお開きください。

まず、上段に記載してあります森林整備・林業木材産業活性化推進事業について説明いたします。

本事業につきましては、林業事業体が高性能林業機械の導入に対して補助するものでございます。ことしの9月補正にて本市の林業事業体である田中林業がプロセッサ1台導入に対し県より補助を受けましたが、同じく田中林業がウインチ付グラップル1台導入に対しても県より追加内示を受けましたので、増額補正をお願いするものでございます。

次に、消耗品費については、その下の中段に記載してあります特用林産物の生産づくり推進事業についてでございます。この事業につきましては、県独自の補助事業でありまして、小・中学校給食に本県で生産されるタケノコや原木シイタケ等を提供しまして、すぐれた味・風味を体験させ、若年層への消費拡大を図るものでございます。今回、県より追加内示を受けましたので、増額補正をお願いするものでございます。

次に、予算書に返りまして、予算書の68ページをお開きください。

11款1項1目現年公共農林水産施設災害復旧費であります。

説明欄をごらんください。

これは、現年公共農林水産施設災害復旧事業費の工事請負費であります。

内容としては、ことしの7月の豪雨と9月の台風24号において市内6カ所の林道災害が発生し、その復旧工事の執行に当たり予算に不足が生じるため、今回増額補正をお願いするものでございます。

次に、歳入予算について御説明いたします。

予算書の24ページをお開きください。

中段になります。16款2項4目農林水産業費補助金の3節林業費補助金であります。

説明欄をごらんください。

先ほど歳出で説明いたしました森林整備・林業木材産業活性化推進事業及び特用林産物の産地づくり推進事業の補助金でございます。

次に、同じページの下段になります。16款2項9目災害復旧費補助金の1節農林水産施設災害復旧費補助金でございます。

説明欄をごらんください。

先ほど歳出で説明いたしました林道災害6カ所の復旧工事に係る補助金でございます。

次に、繰越明許費について御説明しますので、

予算書の8ページをお開きください。

下から2行目でございます。先ほど歳入歳出で説明いたしました現年公共農林水産施設災害復旧事業について、復旧工事の工期を考慮すると年度内執行が困難なことから繰り越しをお願いしてございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（下園政喜）林業費補助金についてお聞きしますが、田中林業さんが毎年のようにもらっていらっしゃるわけですが、ある面からすれば、建設業より従業員がいっぱいおるようだし、うらやましい面があるんですが。これって、毎年ずっと継続してもらっていただけるものなんですか。

○林務水産課長（永田一朗）これもやっぱり国からとあと県からの補助金の予算がありまして、その枠の中でそういう形で、一応自社で買うんだけど補助金対応になるもの、それじゃなくてももう自社で、補助金なしで購入されるものというものがございます。だから、県のその予算の枠の中でできるということであれば、そういう形で、今回も追加で補助金を受けたところです。

本当は、この追加の分については、もう自社で購入される予定でございました。そういう形でございます。とりあえずは、毎年この補助については今まであるんですけど、また来年度以降については、ちょっと今のところどうなるかというのはまだ未定のところです。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題とい

たします。

当局の補足説明を求めます。

○林務水産課長（永田一朗）第4回補正予算書の30ページをお開きください。

6款4項1目林業総務費であります。

説明欄をごらんください。

これは、給与改定に係る給与費等を増額するものであります。

次に、予算書の31ページをお開きください。

6款5項1目水産総務費であります。

説明欄をごらんください。

これも、同じく給与改定に係る給与費等を増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局から報告事項はありませんので、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（大田黒 博）1点だけ確認。地籍が終わり、山の関係が各市民にそれぞれ新しく範囲が決まっていつているんですけども、税の関係は税務課なんですけれども、やっぱり山の関係で市民から相談がありました。

というのは、全く税を払っていなかったところが払うようになったということで、税務課のほうに相談が行ったということで、税務課との駆け引きの中で、うちの山の、祁答院なんですけど、祁答院の山手のほうにカヤの山がありまして、もう何十年、六、七十年前になるんでしょうか、昔カ

ヤをつくっていた方々が、その名義が昔のもうおじいちゃんの時代なんではないでしょうか、ずっとあって、復活して税が発生していると。税務課に相談に行ったところ、そのときに私が思ったのは、林務の関係ですので林務の方々と連携しながら対応してほしいんですけども、それはそちらのほうで全部調べて、その当時3名おられたんですけど、その方は、何かつっけんどんに税を納めてくださいと言われてらしく、物すごく怒られて私のところに来られました。

役所の対応を含めて、こんなものなのかということでありましたけれども、申しわけないですねと言いつつ内容を聞きながら、これは税務課の方々が林務の方々に相談して、どういう山で、1町歩ぐらいあるらしくて、その名前がおじいちゃんの名前で、その3名の連名の一番上の方に責任があるという説明を受けて、その方にそういう取りまとめをして税を納めるようにしてと言われて、もうカッカなってこられて、もう二度と払わんというような形だったらしくて、そういうときの連携はどうしたらいいのか、ぜひ対応を税務課と一緒にやっていける方法はあるのか、課長、部長、職員の方々の対応をお願いしたい。

後日行こうとは思っておりますけれども、もっとほかにそういう案件があるんじゃないだろうかと思っておりますけれども、どうなのでしょう。

○林務水産課長（永田一朗） 今、大田黒委員のお話については、私のほうはちょっと認識していないところでございましたので、また税務課のほうとも、中身もまた確認しながら、今お話しされたことに対してどう対応できるかということについては、また今後話をさせていただきたいと思っております。

○委員（大田黒 博） 私、確認したいのは、今ちょっと、税務課の対応等を聞いて、課長以下、それじゃいかんというのが感じられたのでしょうか。その辺をお聞かせ願えませんでしょうか。対応されるというのはわかるんですけども、山の関係で職員が困っておられるわけです。そのときに、我々もどう言ったらいいのかわかりませんので、課長が、いや、そりゃ林務の関係ですからぜひ行って確認をしたり、対応したいですねというような考えがあるのかないのか、その辺を含めて。

○林務水産課長（永田一朗） 私のほうは、今の話の内容を全く把握していないものでございますので、またこの後、税務課のほうと話をさせていただいて中身を確認した上で対応したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○委員長（石野田 浩） ちょっと、そこはもう違うみたいなどこはあるんで、向こうでもっと話し合いをしてもらって、そして回答してもらいましょうか。ここで、税務課とか地籍課とか、そういうのを一堂に会して。

○委員（大田黒 博） 要は、税務課の方々が、何か事が起きると、私は、常に役所の皆さん方にはリンクしてくださいといつも言っているんですけども、税務課の方々を含めて、そういう案件があったときには、以前もありましたけれども、その税務課の担当の方々を含めて、課長を含めて、役職にあられる方々、その関係の方々を全て集めて、三、四課集めて対応してもらったことが多々あるんですけども。そういうのを含めて、部長当たりが確認をさせていただいて、課長が言っているように、意識、問題である中に、今後詰めていかなきゃならないものだと思っておりますので、ぜひ対応していただきたい。後日、また行きますので、その辺が、そういう市民がおられるということ自体がちょっと少し思いましたので、委員長含めてぜひお願いしときたい。

○委員長（石野田 浩） やっぱり、対応の仕方が縦割りじゃいけないと。それぞれ部課が連携をとりながら対応しなさいという御意見だと思いますので、その辺をよくこれからも検討させていただいて、縦割りだけじゃなくて関係の部課が全部連携をとりながら対応するというのを、今後もまた心がけていただきたいと思います。

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

以上で、林務水産課を終わります。

△畜産課の審査

○委員長（石野田 浩）次に、畜産課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○畜産課長（小城哲也）それでは、まず歳出予算につきまして御説明いたします。

予算に関する説明書（第3回補正）の49ページをお開きください。

6款2項1目畜産総務費でございます。

説明欄をごらんください。

畜産総務費では、職員手当などの減額と、台風24号により被害を受けました川内畜産センターの修繕料を増額しようとするものでございます。

畜産振興育成事業費の償還金は、平成25年度に国庫事業であります肉用牛生産効率化事業補助金を活用し、家畜整備において繁殖雌牛100頭を導入したうちの2頭分につきまして、財産処分承認前に財産を処分したことから、補助事業者が補助金を自主返還するために全額を市が受け入れて、市から県に返納するための償還金の増額をしようとするものでございます。

次に、歳入予算でございます。

同じく、予算書の29ページをお開きください。

21款5項4目1節雑入のうち畜産課分は、上から2番目の肉用牛生産効率化事業補助金返納金は、歳出で説明いたしました返納金の相当額を受け入れるものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案152号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○畜産課長（小城哲也）それでは、予算に関する説明書（第4回補正）の28ページをお開きください。

6款2項1目畜産総務費でございます。

説明欄をごらんください。

今回の増額の理由は、畜産総務費におきまして給与改定に係る給与費などを増額するものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○畜産課長（小城哲也）所管事務調査報告といたしまして、産業建設委員会資料（農林水産部）の6ページをお開きください。

この表には、薩摩川内市におけます平成29年度畜産物生産額128億9,000万円のうち86億5,000万円の67.1%を占めます子牛せり市価格と枝肉価格の推移をお示ししております。

肉用牛経営は、子牛が生まれてから8カ月から9カ月齢で子牛せり市において販売する繁殖経営284戸と、子牛せり市などで子牛を購入し、20カ月程度かけて肉牛に仕上げ出荷する肥育

経営19戸がございませう。

表1には、繁殖経営の収入となります子牛せり市における売却・本人を含む税抜き価格の推移でございませう。全国的に慢性的な子牛不足の状況にある中、子牛価格は、平成28年以降70万円台の高値どまりであり、繁殖経営におきましては安定した経営状況となっております。

表2につきましては、肥育経営の収入となる枝肉価格の推移を示しております。

肥育農家は、せり市で子牛を導入後、18カ月から20カ月ほど飼育し、肉牛として出荷します。そして、その飼育期間に必要な経費は、子牛の導入経費以外に、若干の個人差はございませうが、平均して45万円前後と試算されております。

下段太枠の部分は、平成30年9月現在までの1頭当たり枝肉の平均販売金額でございませう。この太枠の肥育素牛の導入時期は、平成28年から平成29年までの子牛せり市で導入したことになります。

仮に、表1の太枠を導入費用とした場合、必要経費45万円を加えると約123万円が1頭当たり生産費となります。したがって、肥育経営では、枝肉販売金額が123万円以上した場合に収益があったこととなります。したがって、表2下段の太枠部分のA5等級は収益があったこととなります。

このように、現在のところ繁殖経営は安定しておりますが、肥育経営は、素牛となる子牛価格と飼料価格の高値どまりにより依然として厳しい経営状況にあります。そこで、今後も状況を注視しながら肥育経営への支援に努めてまいりたいと思っております。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（大田黒 博）これもちょっと相談を受けたんですが、今、課長からありましたように、月1回のせり市がありまして、それぞれの認定農業者の方々を含めて生産牛、肥育牛と、子牛を育てられて、子牛のせり市に出されておられます。畜産農家の高齢化が進み、大変、いいのかなと思ひながら、今聞きますと、大変なのは大変なんだということで、せり市に行きますと、オリンピックを含めて一つの山が来て、オリンピックが

過ぎたら大変な価格が落ちますよというようなのも情報が入っているようなのもお聞きしますけれども。

その中で、多頭経営の方々ですけど、60頭、70頭飼っておられる方々が、60歳を過ぎて70歳前になる間に一つの方向性として、借金をしながらこれだけの60頭、70頭を生産しているんですけども、今後、その方は独身でお父さん、お母さんとやっておられるでしょうけども、その方々が一つの今後の方向性として何年やっていけるかというものの中に、畜産課を含めて、我々が何年やっていけるのか、その方向性といったものは、どこにどういう形で相談したらいいんだろうかという相談を受けたんですけども。

そういうのを含めて、どういう解決方法があるのか、高齢者を含めて、一つ方向性として、畜産課として、流れとして、子牛のせり市を含めて、推移といいますか、どういうふうに見ていったらいいのか、少し御意見等をお聞かせ願えないでしょうか。

○畜産課長（小城哲也）牛につきましては、それぞれ年齢層によりまして、40歳未満から80歳以上ということで数字はそろえております。70歳以上は、大体全体の27.1%ということでございます。

今ございましたとおり、70歳過ぎてからの経営、先ほど独身ということもございましたが、それにつきましても、やはり、もし空き畜舎とかなった場合は、畜産部会のほうでも、その後若い人は拡大するかしないか、そういったのも含めて、また技連畜産部会もございませうので、その中でまた相談等あれば出していただければと。その人の状況によっても、やはり親戚とかあったりなかったり、一人なのか、そういったのもございませうと思いますので、そこは十分、相談に来ていただければよろしいんじゃないかと思っております。

○委員（大田黒 博）ありがとうございます。そういう方向性があるって、畜産部会でも、申し出ればというのはまた報告しておきますので、ぜひ、その中にまた入っていただいて、その方がどの年代までやれるのか、やれなくなったときにはどうするのかという、少し安定的な方向性もあれば、ぜひおつなぎをしてしていただければありがたいのかなと。

そういうのを含めて、畜産をされる方々に、みんなにいったときに、畜産の薩摩川内市の方向性といったものもまた見えてくるんじゃないかなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○委員（上野一誠）若干関連するかもしれませんが。

薩摩川内市の農業の大きな生産額の中には、畜産というのが大きな割合を占めているということは実証されているというふうに思いますね。したがって、農家戸数そのものは、1頭、2頭買い、少頭買いする人たちは大分減少して、増頭対策を持っていることによって、頭数そのものは、ある程度維持できているのかなということが言えるんじゃないかと思えますね。したがって、品評会の春、秋、こういうのを見るときにも、やはり出品される頭数そのものが大分少なくなってきていますよね。

ですから、JAがしたり、行政がしたり、一つに分かれがあるんですが、そういう意味では、農家の方々が今後、意識を高めていただくためには、高齢者になっていくと、今言われるような限界も一方ではあるのかなと思うんですけど、やっぱりこの畜産を今後維持しながら、さらに、日本一の和牛という一つのためには、薩摩中央市場あたりは、もう全国でも高い市場であるということと言えますので、そういうところから含めると、増頭対策も含めながら、今、やっぱり農家の皆さんに新たな施設の要望、増頭していくための要望ということ等は、十分この補助制度を国県含めてあると思うので、十分期待に応える形は対応していただきたいものだなというふうに思います。

そして、あと、今後これを維持するためには、ある程度の増頭をしていただくと、頭数を確保していただくことが大事で、今、この去勢にしても約80万円と、あるいは雌にしても約六十数万円というのは、かつて考えられない一つの単価、価格ですよ。だから、100万円するということが、昔は100万円したということがびっくりしよったんだけど、今は、100万円、120万円ということがざらに出てくる価格。そのぐらい、この鹿児島牛というものは、宮崎もそういう部分があるんですけど、そういう意味では非常に優秀な形で価格は推移している。そこに農家の皆さんの努力ということがあるというふうに思うので、

課長は、案外、職員もそうですけれど、畜産農家にはある程度、いろんな対応は、現場対応はしていただいているということは、私はそのような理解をしているんですけど、今後もいろんな声を聞きながら、農家の人たちがやる気を損なわんように、そして、農家の流動化も含めて、十分対応できるようなひとつ対応をしていただきたい。

何せ薩摩川内市の大きな農業の核であるということは言えますので、これが力を落していくと、米も結構生産額も低いし、そういう意味では、大いに努めていただきたいということ。いろんな補助事業等を含めて農家の要望には十分対応できるようにしていただきたい。これは意見、要望として言っておきます。

○畜産課長（小城哲也）意見、要望、ありがとうございました。

一応、増頭、それから、品評会、それぞれ事業等につきましては、それぞれに経営体に合った国の事業、単独事業、そういったものを組み合わせ、また増頭対策に取り組んでいきたいと思えます。

職員一丸となって頑張ってもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（石野田 浩）頑張ってください。

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、畜産課を終わります。

△耕地課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、耕地課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○耕地課長（堀ノ内美年）第3回補正の50ページをお願いいたします。

6款3項1目農業土木総務費で、10月の人事異動に伴う一般職員の給与費等の減額であります。

次に、同項2目農業施設改良費で、農道等で危険な箇所等について舗装等の整備を行い、事故防止を図るものであります。また、清浦ダムに係る設備修繕料であります。

次に、同項3目湛水防除事業費については、電源立地地域対策交付金に関連した財源調整でございます。

続きまして、繰越明許費でございます。

8ページをお願いいたします。

6款3項農業土木費でございまして、先ほど歳出で説明いたしました市単土地改良事業費で、工事の平準化を図るため15カ月予算として繰越すものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○耕地課長（堀ノ内美年）4回補正の29ページをお願いいたします。

6款3項1目農業土木総務費で給与費の補正でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局から報告事項はありませんので、これより所管事務全般について、質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、耕地課を終わります。

△六次産業対策課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、六次産業対策課の審査に入ります。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）当課に関する議案がありませんので、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○六次産業対策課長（山元義一）委員会資料の7、8ページをごらんください。

第2次薩摩川内市六次産業化基本計画の骨子案について、説明いたします。

初めに、7ページの上段、基本理念をごらんください。前計画の基本理念は「農林漁業者が主役の六次産業化の推進」から、新たに、「六次産業化ネットワークの構築」、副題として「意欲ある農林漁業者を中心として」に変更いたしました。

本計画を進めていく上での市の基本的な考え方になります。

変更の理由といたしましては、前計画では、農

林漁業者みずからの主体性と創意工夫に基づく経営改善を目指し、意識の啓発や人材の育成を中心に、取り組みを実施してまいりました。

しかしながら、PRが不十分であったことや資金・施設等の不足、近年の深刻な人手不足等の要因により、六次産業化が広く浸透したとは言えない状況にあります。

一方、市内では、少しずつではありますが、各地で六次産業化の取り組みが動き出しつつあるほか、農商工連携など多様なパターンの取り組みがあらわれてきております。

なお、この「六次産業化ネットワーク」については、「農林漁業者相互のネットワーク」のほか、「農林漁業と他産業とのネットワーク」や「生産者である農林漁業者と消費者のネットワーク」など、さまざまな形態が想定されますが、これらが形成されれば、新規の取り組みを開始しやすい環境の整備や販路拡大等にも寄与することも可能となります。

ただし、これらネットワークの中心となり、一番の主演となるべきは、農林漁業者ですので、副題として「意欲ある農林漁業者を中心に」を付しました。これは、前計画の基本的考え方を継承することをあらわすものです。

次に、アンケート調査からは、六次産業化を進めるに当たっての課題をまとめてあります。内容は、お目通しください。

この四つの課題に対応する形で、基本方針・基本施策を定めております。

8ページをごらんください。

基本方針1では、「各商品の特性に応じた効果的な販路開拓等の推進」とし、さまざまなネットワークを活用し、それぞれの特性に応じて、新たな販路開拓を進めたいと考え、三つの基本施策を立てております。

次に、基本方針2では、「消費者ニーズ等に対応した商品開発の促進」として、さまざまなネットワークを活用し、魅力ある商品開発を進めてまいりたいと考え、三つの基本施策を立てています。

次に、基本方針3では、「新規の取り組みのさらなる掘りこしの環境整備」として、前計画では最優先に取り組んできました人材の育成も含め環境整備を図る考えで、三つの基本施策を立てています。

最後に、基本方針4では、「個々の状況に応じた多様な支援の実施」とし、専門的な支援や資金面での支援、また、六次産業化に取り組む農林漁業者を下支えする関係機関との連携強化を考え、三つの基本施策を立てています。

以上で、本計画の骨子（案）について説明を終わります。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（松澤 力） 今、六次産業化ネットワークの説明をいただきまして、私も非常に大事なことだと思っております。

先ほど直売所の件の中でも少し言いましたけれども、やはりこれまで個別での六次化というのは、推進されてきたと思うんですけども、やっぱり組織的にいろんな業者の方、いろんな業界の方も含めて商品開発も進めていかないといけないと思っております。

そういった中で、このよくある農林漁業者の発掘とか、また、そういった方々と他の産業とか業者の方をつないでいくということもしっかりサポートする必要があると思うんですけども、そういったことを今後具体的にどういった発掘サポートを検討されているか、教えていただけたらと思います。

○六次産業対策課長（山元義一） 新たなその六次産業化に取り組む農林漁業者の発掘といたしましては、やはり専門的な各種講習会の開催であったりとか、個別の方々の中今課題とか、そういうのを解決するための相談会であったりとか、個別指導を実施していきたいというふうに考えております。

あとその農林漁業者と他産業との連携につきましては、これまで取り組んでまいりましたが、農商工連携の関係のそういう取り組みであったり、あと他産業といたしましては、社会福祉団体との連携とかそういうのも検討してまいりたいというふうに考えております。

○委員（松澤 力） ぜひ今後のまた新しい取り組みもこのネットワーク通じて出てくると思いますので、幅広く組織的な形で六次化が進められて、現実可能性をまた上げていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員（上野一誠）六次産業化をスタートして何年目になるんですかね。その中であって、個々においては、やはり六次産業化が広く浸透したとは言えない状況にあるということをやったってあって、そして、六次産業を進めるに当たっての課題ということがあります。

基本、一次産業を基本にしなが、六次産業化が進められていくんですが、これまで何社ぐらいですかね。一次産業で補助的なあれをやったのは今こう見てみると、十数社になっているんですかね。

その中で、その立ち入ってどうこうということにはならんと思うんですけど、そのやっぱり応援してきた、そのひとつの検証というか、自分たちがこれを持ち上げて六次産業化としてやってきたことの検証等々について、何かこう動きをさせていらっやいますか。

今のこれを見ると、前計画の考え方を本計画でも継承するという流れがうたってあるんですけど、今までやったものについて、その支援策が本当に会社とかを含めてどのように生かされてきたか。そういうものについての検証はやっていらっやるんですか。

○六次産業対策監（小柳津賢一）先ほどちょっと課長も骨子の説明の中で申し上げました。今六次産業対策課ができて5年目になります。5年間の基本計画が年度末で終了するという事です。

今の動いている基本計画については、簡単に言いますと、先ほど課長も言いましたが、人材育成ですとか、意識の啓発ですとか、薩摩川内市の六次産業化が非常にほかの地域と比べて、県内、それから、九州管内も含めてですけど、おくれるという、その現状認識の上に立って、一人でも多くの六次産業化に取り組む方々を掘り起こしたいと、そこを一番重視したいということで政策を全体的に構築してまいりました。

次の計画では、今、上野委員からもございましたけれども、12社ほど条例に基づく実施計画の承認をとった方がおられて補助金も出しています。その次に続く新規の掘り起こしもするんですが、今度はそれぞれ先に進んでいらっやる方々の経営のフォローアップも含めた販売展開にも重視をしたいというふうに思っております、基本方針のところ、ちょっと課長が触れました。

今、骨子でこの資料7ページ、8ページでお示しをしているこの基本方針3が、前回の基本計画では一番前のほうに来ておりました。それを販売ですとか、商品開発ですとか、今まで先に走ってきた方々のその深堀りも含めて、そういう展開にも今後は比重をちゃんと入れていきたいということで大きくはそういう考え方を持っております。

新規の掘り起こしプラス既存の掘り起こしの販売展開。もちろんその新規の方々が出てきて、販路の開拓というのは、非常に大きな課題ですから、そういう部分についての力の入れ方も今後は新しい取り組みを、来年度の予算のちょっと検討中ですので、今この場ではなかなか申し上げられない部分あるんですが、新規の取り組みをいろいろ考えていきたいと思っております。

ただ、先ほど上野委員が触れられた第1次計画の継承、こちらにつきましては、平成25年に議会で承認いただきまして成立をいたしました条例のほうにもその六次産業化自身は農業者の創意工夫と主体性はきちとうたってありますので、やはりいろいろな今後ネットワークを構築するにしても、農林漁業者の方々を中心になって、農林漁業者の所得の向上というのを一番最優先にしていきたいという部分を1次計画で5年前にうたいましたので、その部分については踏まえながら、また、新しい取り組みの販売展開をしていきたいということで、今回の計画を今のところ検討しているところでございます。

○委員（上野一誠）意見、要望でいいです。一応、部長の考え方もそうあってほしいと、実行がそうしてほしいというふうに思っております。これを生かされる六次産業化にとっては、確かにまだまだ周知ができていない部分もあるかもしれないし、いろんなこの施策を通して、いろいろと努力をしてもらいたいということを意見、要望として申し上げておきます。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（成川幸太郎）新しい骨子案が示されたわけですけども、先ほど課長はこれの中で農商工連携が重要であるということは、説明の中で言

われたんですが、この骨子案の中には、農商工連携というのが全く出てきていないし、私は以前からも、やはり一次産業の方が生産、販売までというのは非常に厳しいものがあるので、農商工連携による六次産業化を進めるといのは必要なんだろうということを言ってきたわけですけども、この中でその農商工連携をうたうということは、言葉には出てきたけど、文書で全然出てきていないんだけど、どのようにお考えですか。

○六次産業対策課長（山元義一）具体的には、基本方針2の②他産業や教育機関等との連携による新商品開発の促進の中に農商工連携は入るようにしておりまして、今現在進めております素案の中にも具体的に農商工連携等の促進ということで主な事業の取り組みの一つにしておるところでございます。

〔「補足をさせてください」と呼ぶ者あり〕

○六次産業対策監（小柳津賢一）政策のところは今課長が申したとおりなんですけれども、字数の関係でスペースの関係で書き切れなかったんですが、理念のところにも他産業とのネットワークという一言ちょっと入っていると思います。

今、これははしょっていますので、こういう書き方になっていますけど、理念のところにも、本文上は、ちゃんと農商工連携というキーワードは入れたいというふうに思っています、その方向で検討中です。

○議員（成川幸太郎）六次産業が薩摩川内市おけているということですので、ぜひ他産業との連携を農商工連携すぐにして、もっと進めるように頑張ってください。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、六次産業対策課を終わります。

ここで休憩いたします。再開はおおむね13時といたします。

~~~~~

午前 11時52分休憩

~~~~~

午後 0時58分開議

~~~~~

○委員長（石野田 浩）午前に引き続き、再

開いたします。

△建設政策課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、建設政策課の審査を行います。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題とします。

当局の説明を求めます。

○建設政策課長（須田徳二）それでは、第3回補正予算書の34ページをお開きください。

2款1項13目地籍調査費において、本年10月1日付の人事異動に伴い職員の給料、職員手当等及び共済費を調整するものであります。

次に、54ページをお開きください。

8款1項1目土木総務費において、地籍調査費と同様に職員の給料、職員手当等及び共済費を調整するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

当局に説明を求めます。

○建設政策課長（須田徳二）それでは、第4回補正予算書の14ページをお開きください。

2款1項13目地籍調査費において、職員の給与改定に伴い職員の給料、職員手当等及び共済費

を調整するものであります。

次に、33ページをお開きください。

8款1項1目土木総務費において、地籍調査費と同様に職員の給料、職員手当等及び共済費を調整するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました、これより質疑に入ります。御質疑願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

説明をお願いいたします。

○建設政策課長（須田徳二）それでは、現在、九州電力株式会社が進めております川内原子力発電所迂回道路建設計画について、これまでの経過と今後のスケジュール等について簡単に御報告いたします。

委員会資料建設部の1ページをお開きください。

現在、川内原子力発電所沿いを通っております県道43号について、発電所から離れた位置に九州電力株式会社が迂回道路を建設し、完成後は、現在の県道43号と交換することとしております。

迂回道路建設の目的と、これまでの経過等についてはお目通しいただきたいと思いますが、先月、計画ルートが決定したことから、滄浪地区と寄田地区で地元説明会を開催いたしました。

迂回道路の計画ルートは、地図上の赤の点線で川内河口大橋の交差点から川内久見崎みらいゾーンの区域を通り、林道寄田青山線と交差し、みやま池の先に出るルートとなっております。

今後のスケジュールであります、1年半ほどかけて道路の詳細設計、用地買収、法令に基づく手続等を完了させ、平成32年度中に工事を着工する予定となっております。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含めて所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（下園政喜）地籍調査の費用が計上されておりますが、鹿児島あたりから来た測量をする方々からよく聞かれるんですが、図根点が、道路改良したところの図根点がほとんどないと。まして、これ土木だけじゃなくして、農林も耕地も含めてなんでしようけれども、特に、舗装したところなんかの側溝縁に打ってあったびょうはほとんどなくなっているということですけども、こういうことって、せっかく地籍調査表いっぱい使っておるんですが、そういう業者に対する指導なんか、道路を発注する指導はないんですかね。

○建設政策課長（須田徳二）地籍調査表の保存についてなんですけれども、これに関しましては、公共工事であれば、必ずそういった図根点について調査をしていただき、手続を踏んで着工前、完成後で管理をやっているところです。

これまで委員がおっしゃいます、そういったことが多々出ているわけですけども、建設政策課としてはこの辺を周知徹底していきたいと考えているところです。

○委員（下園政喜）これについては国の法律で図根点を壊したものに対する罰金制度もあると聞いております。100万円以下の罰金というのがあったと思うんですが、それについて、ほかの町村を言うわけじゃありませんけど、着工前にちゃんとした水道管をしたときに、最後、完成したときに打ってありますよね。ああいうのと含めてマンホールをいけさして保護させている地域もありますよということまで言われるんですが、そういう壊したことが明らかにこの業者が壊したんだと言えば復旧していただけるんですか。

○建設部長（泊 正人）おっしゃいますとおり、図根点が地籍図上には載っているんだけど、現地に行くとなないということで家屋調査士協会とか、市内の測量会社からもいろいろありまして、もう10年ぐらい前になるんですけども、庁内で当時用地課がありましたので、用地課から維持課、整備課、耕地課、林務課の職員を呼んで徹底して、そういう道路改良舗装するときに図根点がある場合は、用地課に協議をして一旦外して終わったら復元するというので、そういうふう

導はしておりますが、なかなか現在なくて、その家屋調査士協会なんかは作業をされるときに、どっか図根点があるところまで行って、そこから追ってきてやるということで大変難儀をされております。

そして、最近では、衛星画、GPSを使って電子基準点というのをまた国土地理院がつくって、近くでは樋脇の道の駅にあるそうですが、そこを衛星が読んで、新たな機械を使って作業現場で任意の図根点をつくって作業をしている。その機械の費用とかかかるんですけども、今のところはそういった形で作業をされておまして、今後、まだ図根点が残っておりますけれども、その図根点について、今後、そういうことがないようにということで指導はしているところです。

○委員（下園政喜）その費用がかかって、川内の測量をすれば大変だと。ずっと先から引っ張ってこないかん、こんな測量はないですよと言われておられます。ぜひそこら辺を入札のときでも指導していただきたいと思います。

ついでにもう1点ですが、西回り自動車道についてお聞きいたします。

私の住んでいるところ湯田ですけれども、水引から西方の境まで約9,600メートルと言われてますが、聞くとところによると、筆数もその960か900かあるみたいです。亡くなっている方が半数以上と。ひどい人はもう江戸時代の名前になっておると聞かれますが、この前も市長も土地買収が始まるというようなことを、簡単にいくようなことを言われましたけれども、ましてや国会議員にとってはもうすぐ買えますよというようなことで、具体的にそういう作業というのは簡単にいくんですか。どういう作業をするか教えていただけませんか。

○建設政策課長（須田徳二）今の相続の関係でありますけれども、基本的には国のほうが買収するというので、国のほうで相続調査を行って、相続の関係図をつくって、相続の関係人からも必ず実印、印鑑証明をいただかないといけないということで、今、そういった手続になるんですけども、国の作業に先駆けて、市のほうでは2年前から相続調査のほうにもう取りかかっております。そういった関係で半分以上も相続調査もでき上がっておりますので、そういった情報を国のほうに

提供して、一日も早くそういった用地買収が行われるように市のほうもやっているというところですよ。

○委員（下園政喜）その9,600メートルのうちの虫食い状態でちよっちょつと買っていくんじゃないで、どっちからか攻めていかんと道路着工はできんような気がしますけれども、そんなふうにされているんですかね。市が今その窓口になっておるわけでしょう。

○建設政策課長（須田徳二）用地買収については、国と協議を進めていくんですけども、基本的には水引のほうから湯田西方インターに向けてというか、やっていくんですけども、事業費を稼ぐためにトンネルの入り口とか、橋長の長い橋梁のところとか、そういったところから買って行って、予算がついても処理できるような形で進めていくように市のほうもそういった形で考えておりますので、その辺を国道事務所のほうに伝えて用地買収に入っていくと。

基本的には、市長も言っているように、市の開発公社のほうで先行取得ができないかというふうなことになっておりますので、今、そういった協議を国道事務所とやっているところです。基本的には、水引から湯田西方インターが先行するんじゃないかなというふうには考えております。

○委員（下園政喜）幸いに反対者は一人もおられませんので、じゃんじゃん進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（石野田 浩）ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）この迂回道路の件なんですけど、このピンクのところは九州電力株式会社の敷地内で、迂回路とのルートの出入り口から、このピンク色の敷地内の道路というのは、これは県道のまま残すということですか。

○建設政策課長（須田徳二）先ほど申し上げましたとおり、ここで地図上で青い線が今の県道になっております。基本的には、県道がこの赤の点線に交換されるということになりますので、あとは公共の道路もありますので、今、九州電力株

式会社の赤の敷地を通る青の県道については、九州電力株式会社の道路になるということになるのかと思っています。

○議員（井上勝博）わかりました。そのピンクのところを通るのは九州電力株式会社の道路になると。しかし、ピンクのところまで来る青いところは、ここはどうなるのかということですか。

○建設政策課長（須田徳二）このピンクのところに来るところに、久見崎循環線という市道がございます。チリメンを干すところの海岸のほうに行く道路ですね。そこまでは、九州電力株式会社の道路というわけにはいきませんので、そこは市道と交換するような形で今進めているところで。

○建設部長（泊 正人）今も図面で言いますと北門と書いてある、その白とピンクの境ぐらいまでは河口大橋のところからは市道として引き取るということになるんです。

[発言する者あり]

○建設政策課長（須田徳二）寄田側のほうは、寄田側のほうも市道がちょうど今赤の点線が県道につくところ付近に市道が海岸のほうに向かって市道があって、入ったらすぐに左のほうに曲がっていく市道がありますので、そこの部分のつけ根のところは市道となる予定になります。

○委員長（石野田 浩）ほかの委員外議員の方ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、建設政策課を終わります。

△建設整備課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、建設整備課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○建設整備課長（吉川正紀）それでは、第3回補正予算書の55ページをお開きください。

8款2項3目道路新設改良費で、右側説明欄に記載の一般道路整備事業費の職員手当等は、職員の扶養親族がふえたことによる増額であります。

また、川内地域の永利地区において整備中である馬場掛川線の終点部分に永利城跡があり発掘調査を行う必要が生じたこと、なお、建物等調査業務委託など、事業の推進を図るために工事請負費・補償金を減額し予算の組み替えを行うものであります。

次に、59ページになります。

8款5項5目公園緑地費においては、本年10月1日付の人事異動に伴い増額するものです。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○建設整備課長（吉川正紀）それでは、第4回補正予算を説明いたします。

55ページをお開きください。

8款2項3目道路新設改良費においては、職員の給与改定に伴い増額するものであります。

次に、59ページをお開きください。

8款5項5目公園緑地費においては、職員の給与改定に伴い増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

す。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局の説明を求めます。

○建設整備課長（吉川正紀）建設整備課所管施設指定管理者評価委員会の評価結果について御報告いたします。

産業建設委員会資料の2ページをお開きください。

今回、10区分の指定管理者評価委員会を10月29日から11月6日にかけて開催いたしました。

評価結果ですが、指定管理者区分ごとの評価集計表がありますが、ごらんいただくとわかると思いますが、ほとんどの指定管理者において得点率7割を超えており、「概ね適正であると認められる」という結果になりました。

また、3ページから22ページには、指定管理者ごとに管理運営評価表及び採点結果表を添付しておりますので御参照ください。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含めて所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、建設整備課を終わります。

△建設維持課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、建設維持課の審査に入ります。

△議案第136号 薩摩川内市道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例の制定について

○委員長（石野田 浩）まず、議案第136号薩摩川内市道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○建設維持課長（内田俊彦）議案つづり、その1の136-1ページからになりますけれども、別紙、議会資料つづりにて説明いたしますので、御準備をお願いいたします。

1ページをお開きください。

1番目の見直しの背景から3番目の占用料の価格のところまでにつきましては、記載のとおりでございます。

4番の具体的な改正の内容について説明いたします。

(1)の占用料につきまして、本市の占用料の物件の主なものとして多いのは、電柱、電話柱、管類、工事用足場等となっております。

この占用料につきましては、2ページをお開きください。上の表の太枠で囲った部分のとおりとなります。

今回の占用料の改正で、表の差額の列に記載のとおり、ほとんどの占用物件で減額となっており、このため年間約150万円ほどの減収となる見込みです。

(2)の地下に設けるものにつきましては、本市には該当がございませんが、表のとおり改正をしようとするものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）今回860万円の減収になるということで、電柱や配管類が使用料、占用料が安くなるということなんですけど、この何でまたこの今そんなに大手、占用しているところは多くは大手の九州電力株式会社とか、電話会社だとか、そういったところだと思いますが、そういうこと

をなぜ今する必要があるのかと。この検討会というのの中に、まさかそんな大企業の人が入り込んで安くしようとしているのかなど。薩摩川内市だけやったら860万円だけど、これを九州管内だとすると、もう仮に九州管内だとすると、莫大ないわば税金減ということになるわけですけども、その辺について検討会は、どんな構成なのかは御存じですか。

○建設維持課長（内田俊彦） 今、減収の見込み額は150万円ということで説明いたしました。約ということですので。一応、占用料の検討委員会というのは、九州管内で占用料の検討委員会というのが開催をされまして、そのメンバーまではちょっと把握はしておりませんが、その中で九州管内、沖縄を含めた会議の中で参加をされて、地区を1地区から5地区まで地域を区分いたしまして、それぞれ地価の価格、そういったのを参考にしながら占用料の価格は決定をされたというふうに聞いております。

○委員長（石野田 浩） よろしいですか。ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑は尽きたと認めます。

よって、これより討論、採決を行います。

討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩） 次に、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○建設維持課長（内田俊彦） まず、歳出から

御説明いたしますので、予算に関する説明書（第3回補正）の55ページをお開きください。

8款2項1目道路橋梁総務費でございます。

内容は、給与関係の調整によるもので10月の人事異動に伴う増額とするものであります。

次はその下になります。

8款2項2目道路維持費になります。

内容は、工事請負費で、市内全域の市道における舗装・側溝などの維持修繕のための工事請負費と道路維持費の15カ月予算が主なものとなります。

次は、56ページをお開きください。

8款2項4目橋梁維持費になります。

内容は、委託料の実績に伴い、その執行残を工事請負費に組み替えるものでございます。

次は、57ページをお開きください。

8款3項1目河川総務費になります。

内容は、市が実施いたします県単急傾斜地崩壊対策事業の県の内示額確定に伴い工事請負費を減額するものでございます。

次は、その下の欄になります。

8款3項2目河川改良費になります。

主な内容は、鹿児島県が実施します県単砂防事業の負担金で、事業箇所追加に伴い地元負担金を増額するものであります。場所は永利町の掛川地区になります。

次は、58ページになります。

8款4項1目港湾総務費になります。

内容は、港湾長寿命化修繕計画策定に伴います港湾施設等の調査業務委託費の確定により減額するものであります。

次は、61ページの下段になります。

9款1項6目災害対策費になります。

建設維持課分は、14節の使用料及び賃借料で、今後の豪雨や降雪等による崩土除去や除雪等に対応するため増額するものでございます。

次は、69ページをお開きください。

11款2項1目現年公共土木災害復旧費になります。

これにつきましては、10月の人事異動に伴います給与関係の調整による減額となります。

以上で歳出の説明を終わり、引き続き歳入の説明を行いますので、21ページをお開きください。下から2段目になります。

1 5 款 2 項 6 目土木費補助金の 5 節港湾事業費補助金です。

これは、歳出で説明したとおり、事業費の確定に伴い減額するものでございます。

次は、2 4 ページをお開きください。下から 3 段目になります。

1 6 款 2 項 6 目土木費補助金の 2 節河川費補助金になります。

これも、先ほど歳出で説明いたしましたとおり、県からの内示額確定により減額するものであります。

以上で、歳入の説明を終わります。

次は、繰越明許費について説明いたしますので、予算に関する説明書の 8 ページをお開きください。

第 3 表、繰越明許費の中ほどになります。

8 款 2 項道路橋梁費の道路維持補修事業になります。

これは、先ほど歳出で説明いたしました道路維持費の 1 5 カ月予算で、公共事業の施工時期の平準化を図るため繰り越しするものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第 1 3 9 号の審査を一時中止いたします。

△議案第 1 5 2 号 平成 3 0 年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第 1 5 2 号を議題といたします。

当局の説明を求めます。

○建設維持課長（内田俊彦）それでは、予算に関する説明書（第 4 回補正）の 3 4 ページをお開きください。

建設維持課分は、8 款 2 項 1 目道路橋梁総務費と、4 5 ページをお開きください。

1 1 款 2 項 1 目現年公共土木災害復旧費で、両費目とも人事院勧告を受けての職員給与等の調整により増額しようとするものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第 1 5 2 号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局から報告事項ありませんので、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、建設維持課を終わります。

△都市計画課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、都市計画課の審査に入ります。

△議案第 1 3 9 号 平成 3 0 年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第 1 3 9 号を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○都市計画課長（伊東理博）それでは、第 3 回補正予算書の 5 9 ページをお開きください。

8 款 5 項 1 目都市計画総務費、事項、都市計画

総務費につきましては、公共サイン整備事業費について、交付金対象事業とするものであり、国庫支出金と一般財源との財源調整を行うものでございます。

次に、8款5項2目街路費、事業、中郷五代線整備事業費につきましては、継続費の確定に伴いまして減額による財源調整をお願いするものであります。

次に、前のページに返っていただきまして7ページでございます。

第2表、継続費補正でございます。先ほど説明いたしました中郷五代線整備事業費の継続費の確定に伴うものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○都市計画課長（伊東理博）それでは、第4回補正予算書の35ページをお開きください。

8款5項1目都市計画総務費について、事項、都市計画総務費につきましては、職員給与改定に伴う調整でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局の説明を求めます。

○都市計画課長（伊東理博）所管事務調査につきまして2件ほど報告させていただきます。

中郷五代線整備事業と川内駅東口アクセス道路の現在の進捗状況につきまして、資料は添付してございませんが、図面を使って説明させていただいてもよろしいでしょうか。

○委員長（石野田 浩）どうぞ。

○都市計画課長（伊東理博）中郷五代線整備事業ですけれども、平成23年度より大小路地区のほうに事業着手しておりまして、現在、国土交通省の事業でございます川内川の引堤事業と連携して進めております。

中郷五代線ですけれども、この上流の天大橋から下流の太平橋の区間1.1キロメートルが事業区間でございます。

平成28年度には上流から380メートルが供用開始しておりまして、ことしの7月30日にその下の240メートルが供用開始をしたところでございます。下麦建材店のところまで供用開始したところでございます。

その下流のほうですけれども、現在、堤防の盛り土が積んでございまして、中郷五代線の線形と堤防の線形が見えてきたところでございます。

今年度、来年度でこの盛り土がさらに進みまして、来年度市の事業で国道3号への取り付けの工事を進める予定となっております。

以上、中郷五代線は以上でございます。

川内駅東口アクセス道路事業のほうについて説明させていただきます。

現在、川内駅東口でコンベンション施設の建設が進められようとしておりますが、この東口のアクセスを良好にするために、ここの赤で旗揚げしています横馬場田崎線の660メートル、この道路を拡幅するという事業を今進めてございます。

現在は、地元のほうに8月にここの横馬場田崎線の道路の線形を説明してございます。

今、土地の価格とか、家屋の補償のための調査を行うために用地測量、それから、家屋調査のほうに今取りかかっています。

家屋調査につきましては、来年度まで予定しております、この地権者との交渉に入るのは、早くとも再来年度というところでございます。

簡単ではございますけれども、以上二つの報告をさせていただきます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含めて所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（持原秀行）横馬場田崎線のこと、コンベンション施設が実際、竣工するということが、非常に期待感が地元としても大きなのがあります。この道路拡幅のことについては、地元説明会とかしていただいております。

これをやるに当たって、やはりきめ細やかな地元対応をしていただきますように、あらぬうわさが先行しておられるようなことも聞いておりますので、やはり誠意を持って、やっているんだということ、地域の方々に示していただいて、寄り添った事業展開をよろしく願います。要望です。

○委員長（石野田 浩）ほかにございせんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）その拡幅のことですが、説明会をされたということで、特徴的な住民の意見、要望というのを御紹介いただきたい。

○都市計画課長（伊東理博）8月に道路の線形の説明を地元の住民の方に説明したところです。

基本的には、事業そのものについては、特に反対するという意見はそのときはございませんでした。

ただ、その線形のルート案を2案示して、試案とは別のこっちの案がいいという方もおられました。ただ、そこは個別に市としてはこちらの案で進めていきたいということ、今後個別には説明していく予定でございます。

○建設部長（泊 正人）補足といいますか、ほかの意見では、例えば、春田川があるものから、春田川の改修で1回ちょこっと動いたと。橋でもう一回動いて、それで、今度3回目だと、またかというような意見も出ましたけれども、そちらについては、ある程度協力的な御意見もあります。

あと、簡易郵便局ですけど公共的なところもありまして、これからただいま課長からありましたとおり用地の測量、家屋の補償の調査等で金額が出てきてから個別の交渉になっていきますので、その辺で何とかただいま持原委員からありましたとおり、情報をどんどん提供しながら、できるだけ積極的に誠意を持った交渉に努めてまいりたいと思っております。

○委員長（石野田 浩）ほかの方ありませんね。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、都市計画課を終わります。

△区画整理課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、区画整理課の審査に入ります。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）審査を一時中止しておりました議案第152号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○区画整理課長（川畑 稔）それでは、一般会計補正予算の区画整理課に係る歳出について御説明申し上げます。

第4回補正予算書の35ページをお開きください。

8款5項3目土地区画整理総務費であります。天辰第一地区、天辰第二地区土地区画整理事業特別会計補正予算に伴い一般会計から繰出金を、天辰第一地区、天辰第二地区、それぞれ増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質

疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△議案第156号 平成30年度薩摩川内市天辰第一地区土地区画整理事業特別会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、議案第156号平成30年度薩摩川内市天辰第一地区土地区画整理事業特別会計補正予算を議題といたします。

当局の説明を求めます。

○区画整理課長（川畑 稔）まず、歳出のほうから御説明申し上げます。第4回補正予算書の88ページをお開きください。

1款1項1目土地区画整理事業費において、職員の給与改定に伴い、職員の給料、職員手当等及び共済費を増額するものであります。

次に、歳入について御説明申し上げます。前に戻っていただき、87ページをお開きください。

5款1項1目一般会計繰入金につきましては、財源調整により、増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

よって、これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第157号 平成30年度薩摩川内市天辰第二地区土地区画整理事業特別会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、議案第157号平成30年度薩摩川内市天辰第二地区土地区画整理事業特別会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○区画整理課長（川畑 稔）まず、歳出のほうから説明いたします。第4回補正予算書の98ページをお開きください。

1款1項1目土地区画整理事業費において、職員の給与改定に伴い、職員の給料、職員手当等及び共済費を増額するものであります。

次に、歳入について御説明申し上げます。前に戻っていただき、97ページをお開きください。

5款1項1目一般会計繰入金につきましては、財源調整により増額するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

よって、これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局に説明を求めます。

○区画整理課長（川畑 稔）それでは、天辰第一地区、第二地区の事業概要と現在の進捗状況について、前の図面で説明させていただきたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

○委員長（石野田 浩）はい、説明してください。

○区画整理課長（川畑 稔）まず初めに、委員会資料の23ページをお開きください。

天辰第一地区と天辰第二地区の事業概要について御説明申し上げます。

まず天辰第一地区ですが、施工面積75.4ヘクタール、施工期間、平成9年度から平成31年度の23カ年間で現在行っておりまして、来年度、また3年間事業延伸をしたいと考えているところでございます。

現在、天辰第一地区につきましては、第二地区との境を残して約95%完成しております。本年度につきましては、笹脇墓地の整備を進めるということから、現在35基の移転の方々と協議を進めておりまして、来年度までには移転を進めるということで、一部整備をすることで現在行っているところでございます。

それから、もう90%以上完成しておりますので、出来形確認測量です、俗に言う地積測量のまたやり直しなんですが、確定測量を行っているところでございます。

それから、天辰第二地区との境の周辺の整備を現在行っております。

それから、天辰第二地区につきましては、施工面積50.9ヘクタール、平成28年度から平成42年度までの15年間で現在整備を進めているところでございます。

本年度につきましては、河川の引堤を中心に整備をするということから、約39戸86棟あるんですけども、そのうちの一部を現在移転補償を

進めているところでございます。

それから、天辰第二地区と天辰第一地区との区域境の整備を進めるということで、墓地移転並びにこの周辺の一部造成を現在行っておりまして、あと本年度予定しております2戸の交渉を残して順調に進んでいるところでございます。

来年度から河川事務所のほうにおきまして、現在、県道山崎川内線がここは通っているんですけども、その県道を河川堤防外につけかえて、区域内の整備を進めていくというような形で計画を行っております。

仮設道路につきましては、迂回路につきましては道路幅員を6メートルということで現在行っております。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含めて所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（上野一誠）委員会がかわって、この区画の事業進捗、進め方も少し理解をしとかんにやいかんという背景から、天辰第一地区は大方91.9%事業進捗率があるんですが、この天辰第二地区についての資金計画表をちょっと提出してもらえませんか。

○区画整理課長（川畑 稔）資金計画につきまして、後ほど提出という形でよろしいでしょうか。

○委員（上野一誠）内容を示してください。

○区画整理課長（川畑 稔）わかりました。

○委員長（石野田 浩）ほかにございませんか。

○委員（持原秀行）1点だけちょっとこの考え方を教えてください。天辰第一地区、天辰第二地区との減歩率の考え方です。これを見ますと、一地区が29.05%、二地区が33.27%と書いてあるんですが、いろいろ聞いてみれば、各個人、個人の減歩率を聞けば、そんなにならないような気がするんですが、この減歩率の先行取得を市がしたということもあるんでしょうけれども、そこらあたりのこの減歩率のあり方という考え方をちょっとお示してください。

○区画整理課長（川畑 稔）今の減歩率の考え方なんです、一応平均減歩率という形で、天辰第二地区につきましては33.27ヘクタールということでございまして、都市計画道路に付随

する仮換地先と区画道路に付随する仮換地の場所によって減歩率は変わってきます。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。

○主幹兼区画整理グループ長（樋口武士）少し減歩率の考え方について補足させていただきます。

天辰第一地区のときの減歩率ですけれども、もともと減歩率が天辰第一地区の場合は結構農地が多くて、農地の方々、また山林の方々新しい換地として道路つきの道路に換地されますと、当然農地の場合ですと減歩率がちょっと高く出る傾向にございます。

宅地でございますと、減歩率でいきますと大体20%弱ぐらいの減歩率で天辰第一地区も仮換地をしてきたところでございます。

天辰第二地区も、天辰馬場にお住まいの方々の宅地は、おおむね減歩率は大体10%から20%ぐらいですけれども、それ以外の山林をお持ちの方々、農地をお持ちの方々は、やはり区画整理後に大きな道路または区画道路に面しまして土地の利用価値が上がるということで、減歩率が大きくなる傾向になっております。

皆様、個人、個人の減歩率を全て平均して算出したものが現在の天辰第一地区と天辰第二地区の減歩率ということになっておりまして、そんなに私どもとしては大きく差が出たというふうには認識していないところでございます。

○委員（上野一誠）部長でいいと思うんだけど、言わば、この区画整理事業をやるに当たって、国・県の補助金の関係、事業費を予定していた内容からすると、補助金が非常につけづらいと。そのことによって当初計画からすると、やはり減額補正をしなきゃいけないということが出ていると思うんです、これは入来温泉場地区もそうですけど。

そうしたときに、若干の説明の中でも、天辰第一地区についてもその期間を延ばしていくと、せざるを得ないという影響率が出ているというふうに理解ができるわけです。

そういうことを踏まえると、さっきの資金計画は僕はそこらを確認したいもんだから、あえて要求したんですけど。国の動向から見て、区画整理をやるに当たって、現状的に今後の見透しも含めて見解があったら教えてください。

○建設部長（泊 正人）建設関係の公共事業につきまして、区画整理、一般の道路整備、街路、都市計画道路、下水道も含めた全てにおいて、ここ数年要求額に対してかなり低い内示率となっております。そのあおりを受けて当初予定よりも進捗がおくれているというのが事実であります。

特に区画整理につきましては、家屋移転がかなり伴いますので、どうしても地権者に余り迷惑をかけたくない、いつまでもそういう思いをしていただきたくないということで、新年度からは区画整理については別枠で予算取りに入っていくと。

あと橋梁の長寿命化であるとか、都市計画道路とか、そういったものについては、今までどおりの市単独、市のパッケージの中でやっていくということで、要はどうして国の補助をたくさん取れるかということの要望活動とか、県との調整とか、そういうことになっていくと思っておりますけれども。今のところ国の内示の状況というのは、対前年度比100あるいは100.幾らぐらいで余り上がっていないのが実情ですので、市としては要求額については、言葉が悪いかも知れませんが、若干膨らましながら要求をして、予算取りに動いているというような状況であります。

○委員（上野一誠）いろいろ地域説明等の関係もあって、だから地域から言うとなんて何年度ぐらいという一つの進捗を示されるので、一方では財政が厳しい中で、本市の単独の一般財源をどのぐらい組み込んでいけるかということも一方では言えるのかなと思うんですけれども。

より、天辰第二地区はこれから具体的に入っていくけれども、できるだけ天辰第一地区、これはあと入来温泉場地区も含めて、事業完成年度をできるだけ早くやっつけていかないと、事業の評価というか見通しについて余り好ましくないのかなど。いい努力をしていただきたいと思います。

○委員長（石野田 浩）ほかないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、区画整理課を終わります。

△入来区画整理推進室の審査

○委員長（石野田 浩）次に、入来区画整理推進室の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止してありました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）それでは、予算に関する説明書（第3回補正）の59ページをお開きください。

8款5項3目土地区画整理費におきましては、入来区画整理推進室分としまして、右側の説明欄に記載のとおり繰出金の減額であります。

これにつきましては、特別会計で長期償還元金の減額に伴い、財源を調整したことによるものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第145号 平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、議案第145号平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計補正予算を議題とします。

当局に補足説明を求めます。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）同じく予算に関する説明書（第3回補正）の153ペー

ジをお開きください。

2款1項1目元金におきましては、右側の説明欄に記載のとおり、長期償還元金の減額であります。

次に、前のページをごらんください。

4款1項1目一般会計繰入金の減額は、歳出補正にあわせて一般会計からの繰入金を調整するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。ございませんね。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止してありました議案第152号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題とします。

当局の補足説明を求めます。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）それでは、予算に関する説明書（第4回補正）の35ページをお開きください。

8款5項3目土地区画整理費におきましては、入来区画整理推進室分としまして、右側の説明欄に記載のとおり繰出金の増額であります。

これにつきましては、特別会計で給与改定に伴

い一般職員3名分の給与費等の財源を調整したことによるものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△議案第158号 平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、議案第158号平成30年度薩摩川内市入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）同じく予算に関する説明書（第4回補正）の108ページをお開きください。

1款1項1目土地区画整理事業費におきましては、給与改定に伴い、右側の説明欄に記載のとおり一般職員3名分の給与費等を調整するものであります。

次に、前のページをごらんください。

4款1項1目一般会計繰入金を増額は、歳出補正にあわせて一般会計からの繰入金を調整するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局の説明を求めます。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）事業概要につきまして、前のほうで図面にて説明をいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員長（石野田 浩）はい、どうぞ。

○入来区画整理推進室長（引地明吉）それでは、入来温泉場地区土地区画整理事業について概要を説明させていただきます。

事業場所は、入来町副田地内になります。旧富士通跡が大体こちら辺です。川薩清修館高等学校がこちら辺になります。この北側に位置しております。旧温泉街を中心とした地区でございます。こちら辺が旧温泉街の地区になります。

総面積14ヘクタール、総事業費66億4,800万円、事業期間が平成12年度から平成33年度までの22年間となっております。

事業の目的としましては、旧温泉街が旅館、それから店舗、住宅等がかなり密集をしております。その上、道路も狭かったことから、災害等の防災上の観点からもいい状態ではございませんでした。それで今回道路、公園等の公共施設の整備と同時に区画の整備を行って、安全で快適な暮らしやすいまちをつくることとしております。

現在までの事業の進捗につきましては、事業費ベースで平成30年度、本年度分の執行を含めまして58億1,000万円ほどになります。執行率としましては87%となっております。

それから、建物移転につきましては、計画戸数

が195戸ありまして、現在まで189戸が終わっておりますので、進捗としましては97%でございます。

現在地区内には、認定こども園が開設されて今開園しております。そしてまた市の公衆浴場、入来温泉湯之山館が平成27年度から営業をしております。それから、その周辺にはそば屋ですとか家族風呂、それからお菓子屋といった店舗が営業している状況でございます。

今後の事業実施につきましては、交付金対象であります本通辻原線の道路築造工事を中心に、残りの家屋移転とその周辺、この白地のところなんですけれども、ここら辺の造成工事を実施していくこととしております。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました、これを含めて、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、入来区画整理推進室を終わります。

△建築住宅課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、建築住宅課の審査に入ります。

△議案第137号一議案第138号 薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定について

○委員長（石野田 浩）まず、議案第137号及び議案第138号薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定についての議案2件を一括議題といたします。

これらの議案2件については、いずれも指定管理者として市営住宅等の管理を行わせている団体の指定期間が平成31年3月31日満了することに伴い、新たに指定管理者を指定しようとするものでありますので、一括して説明を求め、質疑を行った後、1件ごとに討論、採決を行います。

それでは、当局に補足説明を求めます。

○建築住宅課長（福島和朗）まず、議案第137号薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定についてから説明させていただきます。議会資料の3ページをお開きください。

1の指定管理者に行わせる施設の概要は、川内地域・旧川内市内の45住宅、1,435戸の市営住宅とその共同施設等になります。

3の指定管理候補者ですが、会社名がこれまでと同様、平野商事株式会社でございます。

4ページをお願いいたします。

4に指定管理候補者が示した事業計画の概要を記載しております。

（4）組織体制ですが、職員は8名で、内訳は、所長、事務職員2名、建築士1名、電気技師1名、大工2名、清掃補助員1名になります。

5ページをお願いいたします。

5の選定経過の概要ですが、選定委員会は10月1日に川内文化ホールにて開催をしております。

選定委員は、建設部長を委員長に、関係課長3名、市営住宅入居者代表4名、地区コミ協議会代表2名の合計10名で審査をいたしました。

応募団体数は、民間事業者・平野商事株式会社
が1者でありました。

選定の理由ですが、申請者は、平成18年度から市営住宅等の指定管理業務を行っており、入居者のトラブル解消や修繕業務に高い信頼性があり、24時間体制で緊急時の対応もしていただいております。

また、自社努力により、管理業務の経費節減に取り組んでおられること等を評価いたしまして、審査結果は次の6ページにありますけれども、1,000点満点中814点で、適正な団体であると判断をいたしました。

続きまして、議案第138号薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定についてを説明させていただきます。議会資料7ページをお願いいたします。

1の指定管理者に行わせる施設の概要は、本土4地域、樋脇・入来・東郷・祁答院地域の84住宅、776戸の市営住宅とその共同施設等になります。

3の指定管理候補者ですが、会社名がこれまでと同様、株式会社橋口組になります。

8ページをお願いいたします。

4は指定管理候補者が示した事業計画の概要になります。

(4)の組織体制は、職員が5名で、内訳は、所長、事務職員2名、営繕業務を担当する建築士2名になります。

9ページをお願いいたします。

5の選定経過の概要ですが、選定委員会の開催日、委員数、応募団体数は、川内地域と同様でございます。

(4)の選定の理由ですが、申請者は、平成28年からの市営住宅等の指定管理業務の実績や数多くの民間賃貸住宅管理運営のノウハウを持ち、入居者のトラブル解消や修繕業務の迅速な対応に評価があります。

また、24時間・365日体制で緊急時の対応もしていただいております。

また、自社努力により管理業務の人件費等の経費節減に取り組んでおられること等を評価しまして、審査結果は、次の10ページにございますけれども、1,000点満点中805点で、適正な団体であると判断をいたしました。

○委員長(石野田 浩)ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。

まず、2件の案件ですので、どちらの議案に質問かをはっきりとしてから、質疑をしていただきたいと思っております。御質疑願います。ありませんか。両案件ともないということですか。ありませんね。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)質疑はないと認めます。

よって、これより討論、採決を行います。

まず、議案第137号薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定について討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第138号薩摩川内市営住宅等の指定管理者の指定について討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長(石野田 浩)次に、審査を一時中止しておりました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○建築住宅課長(福島和朗)それでは、第3回補正予算書の60ページをお開きください。

当課分は、8款6項1目住宅管理費において、本年10月の人事異動に伴い、職員の給料、職員手当等及び共済費を調整するものでございます。

続きまして、9ページに戻っていただきまして、第4表、債務負担行為の追加分について説明させていただきます。

2行目の薩摩川内市営住宅等川内地域及び本土4地域の指定管理者の指定管理料で、期間が、平成31年度から平成35年度までの5年間です。

限度額は、指定管理者との協定で定める管理費用になります。

○委員長(石野田 浩)ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(石野田 浩)質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○建築住宅課長（福島和朗）それでは、第4回補正予算書の37ページをお開きください。

当課分は、8款6項1目住宅管理費において、職員の給与改定に伴い、職員の給料、職員手当等及び共済費を調整するものでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました。これより質疑に入ります。御質疑願います。ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局から報告事項はありませんので、これより所管事務全般について質疑を行います。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、建築住宅課を終わります。

△商工政策課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、商工政策課の審査に入ります。

△議案第133号 財産の取得について

○委員長（石野田 浩）それでは、議案第133号財産の取得についてを議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○商工政策課長（末永知弘）財産の取得についてを説明をいたします。議案つづり、その1の133-1ページをごらんください。

今回取得する財産は、独立電源型ソーラーLED灯26基であり、市内の避難所に設置しようとするものでございます。

取得価格は2,471万400円で、取得の相手方は事業協同組合薩摩川内市企業連携協議会でございます。

それでは、詳細について御説明いたします。議会資料の商工観光部の1ページをごらんください。

1の事業の目的ですが、まず1点目に、市民の安心・安全の確保でございます。商用電源が不要である特徴を生かし、停電時にラジオ等を通じての情報収集及び携帯電話の充電など非常用電源としての活用を図るものでございます。

2点目は、市内企業の育成でございます。このLED灯、通称スマコミライトでございますが、市企業連携協議会の会員企業及び市内の高校・大学等で開発製造されたものでございます。製品の普及促進に取り組むことで、製造にかかわる企業の育成を図ることとしております。

2の事業の効果につきましては、1から6に記載のとおりでございます。お目通し願いたいと思います。

3のスマコミライトの特別仕様ですが、停電時の活用のために蓄電池の直流電流を交流に変換するインバーターを備えております。

次に、2ページをごらんください。

今回26基を設置しますが、その設置場所の一覧でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました。これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩） 次に、審査を一時中止しておりました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○商工政策課長（末永知弘） 第3回補正予算書の53ページをお開きください。

一番上の上段のほうです。7款1項1目商工総務費の増額で、10月の人事異動に伴う給与費及び商工観光部全体の職員手当を増額しようとするものでございます。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩） 次に、審査を一時中止しておりました議案第152号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局に補足説明を求めます。

○商工政策課長（末永知弘） 第4回補正予算書の32ページをお開きください。

7款1項1目商工総務費の増額で、人事院勧告に伴います商工観光部職員の給与改定による給料、職員手当を増額しようとするものでございます。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めます。

以上で、議案第152号については、質疑が全て終了しましたが、本案の討論、採決については、議案第139号の討論、採決後に行います。

それでは、ここで議案第152号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩） 次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○商工政策課長（末永知弘） それでは、2点御報告をさせていただきたいと思えます。

1点目は、ちょっと資料がございませんので、口頭で報告をさせていただきます。

1点目は、薩摩川内市産業支援センターの移転の関係についてでございます。国道3号の川内郵便局の向かいにございます薩摩川内市産業支援センターは、民間のビルの1室を借り上げ、各種相談業務を行っているところでございますが、先般ビルのオーナーから移転のお願いがなされたところでございます。このことから、今後、移転先の検討を行っていくことにいたしております。

次に、2点目についてですが、専門職の山内が

説明いたします。

○**専門職（山内哲郎）** 2点目の川内港久見崎みらいゾーン開発事業に関しまして、進捗状況について御報告をいたしますので、産業建設委員会商工観光部の資料の1ページをお開きください。

川内港久見崎みらいゾーン開発事業におきましては、これまで造成工事に向けて基本設計や各種手続を進めてまいったところですが、川内原子力発電所迂回道路のルート決定に伴い、今回図面でお示しさせていただきました。

今回のルート決定に伴い、今後関係機関と協議を進めながら実施設計にとりかかるとしております。

次に、用地の取得状況ですが、先月末時点で約27.5ヘクタールのうち約25.4ヘクタールの用地契約が整い、面積ベースで約92%の事業用地を取得したところでございます。

残りの2.1ヘクタールにつきましても、引き続き丁寧な交渉に努めながら、年度内に全事業用地を取得したいと考えております。

関連しまして九州電力が発注しています土砂運搬用道路の工事についてですが、本年10月から仮設道路工事に着手しており、おおむね来年の秋ごろまでに工事を完成させたいとお聞きしているところであり、この土砂運搬道路の完成を待って造成工事に着手したいと考えているところでございます。

○**委員長（石野田 浩）** ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について質疑をいたします。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○**委員長（石野田 浩）** 質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○**委員長（石野田 浩）** 質疑はないと認めます。

以上で、商工政策課を終わります。

△交通貿易課の審査

○**委員長（石野田 浩）** 次は、交通貿易課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内

市一般会計補正予算

○**委員長（石野田 浩）** それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○**交通貿易課長（佐多孝一）** 予算に関する説明書（第3回補正）の33ページをお開きください。

2款1項8目国際交流費、説明欄、事項、国際交流事業費は、薩摩川内市公式訪韓団業務委託料の減額補正が主なものでございます。

次に、53ページをお開きください。

7款1項2目商工振興費、説明欄、事項、川内港振興事業費は、薩摩川内市貿易振興協会補助金であり、実績を見込んで補助金を増額補正するものでございます。

なお、コンテナ荷役を行うハーバークレーンについて、鹿児島県により調査点検を実施した際、ふぐあい確認されたため、現在、早期復旧に向け補修工事が進められているところでございます。

今現在は、代替クレーンにより荷役作業を行っているところです。

次に、事項、コミュニティバス等利用促進事業費は、国土交通省の支援事業である地域間幹線系統確保維持費補助金について、鹿児島県より本市の負担額が示されたことによる増額補正でございます。

以上、交通貿易課に係る平成30年度一般会計補正予算についての説明を終わります。

○**委員長（石野田 浩）** ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○**委員長（石野田 浩）** 質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○**委員長（石野田 浩）** 質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局の説明を求めます。

○交通貿易課長（佐多孝一）所管事務調査について御説明いたします。産業建設委員会資料の2ページをお開きください。

樋脇地域デマンド交通「ゆうゆう号」についてでございます。樋脇地域では、少子・高齢化、地域人口の減少により利用者が減少していることや小型バスが進入できない交通空白地の解消を図ることなどから、平成31年2月1日よりデマンド交通を導入するものでございます。

3ページをごらんください。

運行委託予定であります有限会社市比野タクシーさんで、利用者が多い支所、道の駅樋脇遊湯館、病院、商業施設を中心に北部エリアと南部エリアに分け運行する予定でございます。

なお、デマンド交通の導入初日の平成31年2月1日に、道の駅樋脇遊湯館において、10時から11時を目途に出発式を予定しておりますので、委員の皆様方には御案内をさせていただきますので、御都合がよろしければ出席のほうをよろしくお願いいたします。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について質疑を行います。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）デマンドが走るということで市比野タクシーが運行事業者になっているわけですが、こういう事業者の選定については、今特に説明はなかったんですけども、入札とかそういう過程があるのかどうかとか、説明いただけますか。

○交通貿易課長（佐多孝一）まず一点、デマンド交通というのは、地域を一番まず知っている事業者が一番ベストだというのが一つ考えております。ただ、今回の業者選定に当たりまして、市内の交通運行事業者全ての方々に参考見積もり等も含め話をさせていただきました。その中で今回、地元の市比野タクシーさんが手を挙げてくださったということが経緯でございます。

○委員長（石野田 浩）ほかありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、交通貿易課を終わります。

△次世代エネルギー課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、次世代エネルギー課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）まず、審査を一時中止しておりました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○次世代エネルギー課長（田中道治）歳出について御説明いたします。薩摩川内市各会計予算書・予算に関する説明書（第3回補正）の33ページをお開きください。

2款1項6目企画費の右の表、説明欄の丸印2番目にあります次世代エネルギー推進費は、当初予算で未利用バイオマス燃料化事業可能性調査業務委託費3,000万円を計上しておりましたが、調査箇所を絞り込んだことに伴う件数の減で1,500万円を減額するものでございます。

次に、歳入について御説明いたします。同じく予算に関する説明書の24ページをお開きください。

16款2項1目総務費補助金、表の右の説明欄にあります食料産業・6次産業化交付金1,500万円は、補助メニューの変更により金額を減額するものでございます。

次に、29ページをお開きください。

21款5項4目雑入の表の右の説明欄の上段にあります二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金1,500万円は、先ほど御説明いたしました食料産業・6次産業化交付金の代替の補助金申請を行いまして、その補助の内示を受けたため予算要求するものでございます。

なお、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金につきましては、環境省から補助金業務の受託を受けました一般社団法人環境技術普及促進協会か

ら交付されるため、雑入となります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました、これより質疑に入ります。御質疑願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○次世代エネルギー課長（田中道治）産業建設委員会資料の4ページをお開きください。

薩摩川内市天辰地区スマートモデル街区整備計画事業についての説明でございます。

まず初めに、整備計画の承認についてでございます。

薩摩川内市天辰地区スマートモデル街区整備計画優先交渉権者から、平成30年11月19日に、薩摩川内市天辰地区スマートモデル街区プロジェクト整備計画（案）が提出されまして、同日、天辰地区スマートモデル街区整備計画審査委員会が開催され、提案のとおり承認されたところでございます。

今後は、土地売買の価格を決定した上で整備計画の決定といたしまして、事業着手に向け各種手続を進めることとなります。

優先交渉権者は南国殖産グループでございます。構成メンバーは南国殖産株式会社、ヤマサハウス株式会社、株式会社橋口組でございます。

土地売買契約までにかかるスケジュール案でございますけれども、本年12月に57ブロックの不動産鑑定、平成31年1月に不動産価格評定委員会、整備計画決定、土地売買仮契約締結を行いまして、同年3月に土地売却議案の提案を行いまして、承認後、本契約の成立となるところでございます。

次に、5ページをお開きください。

薩摩川内市天辰地区スマートモデル街区プロジェクトの整備計画の概要について御説明いたします。

基本コンセプトは、「自然とひとのエネルギーをつなぎ、分かち合えるまち」としております。

整備計画の場所でございますけれども、航空写真区画にお示ししているとおり22ブロックと57ブロックの2区画でございます。場所でございますと鹿児島純心女子大学の近くが57ブロックになります。面積的には22ブロックが3,357.43平米、57ブロックが2万7,688.57平米、合計で3万1,046平米の面積となっております。

次に、スマートモデル街区の全体の目標数値というのを掲げておりまして、三つございます。二酸化炭素の削減効果、これは60%以上、それから再生可能エネルギーの利用率を30%以上、それからライフラインの確保を3日間としておりまして、この数字につきましてはゼロエネルギーハウス、通称ZEHハウスと言われておりますけれども、こちらの住宅を1棟建てたときに、年間で達成できる見込みの数値をお示ししているところでございます。

次に、6ページをお開きください。

具体的な整備方針でございますけれども、先ほど申しましたとおり、22ブロックと57ブロックとありますが、大きく戸建住宅ゾーンと集合住宅ゾーンに分けられております。住宅戸建ゾーンでは周辺環境との調和、良好な居住環境の確保、集合住宅ゾーンでは1階部分に認定こども園とかレストラン、集会所が併設されまして、子育てしやすい環境や防災・コミュニティの機能が計画されているところでございます。

7ページになりますけれども、建物等につきましては建築物の用途制限、高さの制限とか色の調和とか制限が設けられておりますけれども、同じく道路・緑地公園などにつきましても、歩行者の空間とか防災機能の充実を図りつつ快適で安全に利用できる整備計画が提案されております。

7ページの中段以降になります計画付与でございますけれども、22ブロックでは後発で誕生する57ブロックの先行型の分譲地としまして、各住宅メーカーのモデルハウスが、計画でいくと

8棟ほど建設予定でございます。この住宅メーカーのモデルハウスを見ていただいて、後発で分譲されます57ブロックの告知や販売促進のプロモーションが行われることとなっております。

なお、57ブロックでは、戸別住宅が60戸前後、集合住宅が1棟計画されておまして、エネルギー街区として機能の充実や停電などにも対応できる安全性が確保できる街区となっております。

8ページ、9ページにそれぞれ22ブロックと57ブロックの図面が出ておりますので御参照ください。22ブロックにつきましては、モデルハウスの8棟と駐車場、57ブロックは60区画の住宅と集合住宅の画像が出ております。

それから、6番目のICT計画でございます。入居者専用の情報サービスとして、スマートフォンとかテレビ等でポータルサイトが利用できるようになっております。

最後になりますけれども、管理組合の計画がございます。

戸別住宅エリアが、入居者が利用できるポケットパークとかコミュニティの広場、植栽関係を整備するために入居者の方に管理組合に入っていたいで、みんなで費用を出して管理いたしましよという形になっております。

それから、自治会の関係になりますけれども、同じように管理組合が徴収をして、自治会のほうに納入をするということになっております。

最後にプロジェクト事業のスケジュールですけれども、22ブロックでは平成31年10月にモデルハウスが完成いたしまして、57ブロックでは平成32年10月に宅地分譲の住宅フェアを開催することとなっております。集合住宅につきましては平成32年1月に住宅建築が着工しまして、12月に完成となる予定でございます。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について御質疑願います。

○委員（松澤 力） 今さまざまな取り組み説明いただきました。以前もちょっと一般質問でも取り上げさせていただいたんですけども、本市のこのエネルギーの町としてのいろんな取り組みについてのコンベンション施設において、いろんな県内外からいろんな方来られるということで、PRの場として、また導入をして本市での次世代エネ

ルギーの取り組みをPR、広報していくのが必要かなと思っているんですけども、そのあたりの今後の方向性があれば教えていただけたらと思います。

○次世代エネルギー課長（田中道治） コンベンションについての再生エネルギーのPRということでよろしかったですか。コンベンション施設につきましては、現在の計画でいきますと、太陽光発電あるいは地中熱発電、それから蓄電池の施設がございまして、それをデータを見える化を図りまして、来場者の皆様方に薩摩川内市の取り組みだとか、実際の再生可能エネルギーの効果測定についてもPRできるような設備にしたいと計画をしております。

○委員（松澤 力） 今スマートタウンでの説明いただいた、こういった電力の見える化とか、こういったICTを活用したのもも入ってくるような形になるんですか。

○次世代エネルギー課長（田中道治） 来場者の皆様にデジタルサイネージという設備を利用して、来場者の皆様方に効果測定の数値を見えるような形で設備を導入する予定です。

○委員（松澤 力） ぜひ今計画されているということでしたので、積極的にそういったPRの場としてもコンベンション施設というのは、いろんな方が来られると思うので、取り組みを前に進めていただけたらと思います。

○委員（大田黒 博） 次世代エネルギーとしてスマートハウス等で、そういう一つのエネルギーの町としての構想ですごいなと思いながら少し気になるところが、以前も少し質問をしたのかな。この優先交渉権が3グループありますよね。そうしたときに一般の住宅業者の方々が、これに入るとなるとどういう形になるのかというのが、まず一点、お願いします。

○次世代エネルギー課長（田中道治） 建設につきましては、市内の住宅メーカーとか候補になっていない利用者が参加できるかという御質問だと思うんですけども、鹿児島県でスマートハウスモデル推進協議会というのがございます。そちらに入っている住宅メーカーさんであれば建設可能なんですけれども、その協議会に入っていないところでございますと、参加はできないこととなっております。

○委員（大田黒 博）その辺の一つの確認と
いいですか、そういうのは業者さんにはお流し
して説明は十分されているのでしょうか。とあわせ
て、8戸数は先につくって、そういうのを宣伝で
モデルをつくりますよね。そういうのを含めた
ときに、地元の業者さんにどうしてもお願いしたい
というのがあれば、そこは少し融通がきくんでし
ょうか。

○次世代エネルギー課長（田中道治）まず、
地元の参加については、まず優先交渉権者とス
マートハウス推進協議会の皆様方が薩摩川内市の
用地を買われて道路を整備したり、いろんな設備
を整備されて、それぞれの御負担がございませ

す。また、これまでのコンサルの費用とかござい
ますので、最初から入っていない業者については、
入れないことになると思います。

それから、一般の住宅を見に来られた市民の方
が、自分のお知り合いの大工さんとか、自分のつ
き合いがある住宅メーカーさんをお願いして建て
たいということがあるかもしれませんけれども、
それは建築協定とかございまして、できないこと
となっております。

○委員（大田黒 博）建築協会、そういうグ
ループの会に行きますと、こういうことが構想と
してあるがという心配等の相談を受けたんですが、
そのあたりは次世代エネルギー対策監を含めて企
画政策部長に少しお話をして、そういうトラブル
等の解消のために十分な説明をというお願いをし
たと思うんですけども、その辺は説明をされて、
今言われる、課長が説明されるものは少しくり
アされたと思っていいのでしょうか。

○次世代エネルギー対策監（久保信治）先ほ
ど課長が説明しましたスマートハウス協議会の中
には大部分というんですか、薩摩川内市内の大部
分の方も入っていらっしゃる。例えば橋口組
さんであったりとか、それから技建さんであつた
りとか、そういった形で入っていらっしゃるんで
すので、今後もスマートハウス推進協議会のほうに
加入していただきながら販促するという形は可能
かもしれませんので、またさらに加入していただ
きながら進めていけるようにちょっと、よそのほ
うには話をしてみたいと思います。

○委員（大田黒 博）一番心配していたのは
そういうことで、そういうスマート的なエネル

ギーの町として、どうしてもそういう団地等がで
きると、今、天辰第一地区、第二地区を含めて、
一番住宅が建ち並んでいく中に1画設けたいとい
う方が多分出てくると思うんですよ。そういった
ときに、技建さんとか橋口組さんという大きな会
社で、少し個人的な、小さな方々には、今、対策
監が言われるのは相談すればできるということ
です。ぜひその辺を含めて少し門戸を広げて、
南国殖産株式会社等が頭になっている関係で難し
いものを含めて、市が入っているわけですから、
その辺を解消していただけないかなと思うんです
が。

委員の方々が今聞かれて、どういうのが今から
出てくるのかなと思ったりもしますけれども、そ
の辺が少し心配なところでもありますけれども、
どうなんでしょう。

○次世代エネルギー対策監（久保信治）現在
22ブロックと57ブロックにつきましては、そ
ういう形で影響としてやっていきますけれども、
その周りにもまだ土地がたくさんございませ
すので、そういった形で今後は横展開できるように協議を
していきたいというふうに考えます。

○委員長（石野田 浩）ほかにはありませ
んか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認め
ます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認め
ます。

以上で、次世代エネルギー課を終わります。

ここで休憩いたします。再開はおおむね15時
15分といたします。

~~~~~

午後2時56分休憩

~~~~~

午後3時13分開議

~~~~~

○委員長（石野田 浩）休憩前に引き続き、
委員会を再開いたします。

△観光・シティセールス課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、観光・シティ

セールス課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）予算に関する説明書（第3回補正）の53ページをお開きください。

7款1項3目観光費の当課における補正予算額は、3,200万円の増額であります。

内容につきまして、説明欄をごらんください。

観光物産施設事業費の当課分につきまして、甌島地域宿泊施設整備費補助金について、下甌島地域の宿泊施設から新規要望が出されたため、補助金3,200万円の補正を行うものです。

続きまして、8ページをごらんください。繰越明許費であります。

上から3番目、7款1項商工費の甌島地域宿泊施設整備支援事業3,200万円につきましては、年度内の事業の完成が見込めないことから繰り越しを設定するものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました。これより質疑に入ります。御質疑願います。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○委員外議員（井上勝博）観光の補助金の関係です。新たに出てきたということですが。以前、1億円の補助金を甌島館じゃなくて、その次の申請が出ていたと思いますが、実際のところ申請がされているのかどうか。やっぱり1億円の補助金をもらうんだとしたら、5,000万円は自分で出さなきゃいけないわけで、かなりの費用も自分で資金調達せんにゃいかんわけですが。その辺の経営の見通しとかいうのを考えると、結構大変な決断だと思うんですが、そこら辺どうなんでしょうか。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二

郎）前回補正で行いました1億円の補助金につきましては、現在該当の事業者が事業内容、それから事業計画等を金融機関の方々と詳細に今調整を行っているところで、こちらのほうにはまだ出ていないところでございます。

○委員長（石野田 浩）ほかにはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△請願第6号 「リゾートホテル甌島館」における薩摩川内市との未解決事案に関する請願

○委員長（石野田 浩）次に、請願第6号「リゾートホテル甌島館」における薩摩川内市との未解決事案に関する請願を議題といたします。

本請願については、本年10月4日の本会議において、前企画経済委員会委員長から中間報告が行われ、継続審査事件となっておりますが、委員会条例の改正に伴い、各常任委員会が再編され、産業建設委員会において本請願の審査を行うこととなります。ついては、請願文書表と中間報告をお手元に配付しておりますので御確認いただきたいと思えます。

それでは、中間報告によると、9月26日の委員会では、現在、代理人同士の協議が継続されている旨の報告があったようですが、その後の状況について当局に説明を求めます。

○観光・スポーツ対策監（坂元安夫）本件に関する訴えの提起（議案第87号）につきましては、本年9月議会におきまして議決をいただいたところでございます。現在、双方の代理人におきまして、協議を進めていただいているところでございます。

先ほどございましたとおり、9月26日の委員会の中間報告と同様の状況でございます。

協議の内容等につきましては、現段階では協議中でございますので、説明は差し控えさせていただきたいと思えます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました。これより質疑に入ります。

なお、質疑は、ただいまの説明を踏まえて御質疑願いたいと思います。

それでは御質疑願います。御意見、質問ありませんか。よろしいですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

それでは、本請願の取り扱いについて協議したいと思います。御意見はありませんか。

○委員（松澤 力）ただいま、この件についてはまだ結論が出ていないということもありますので、引き続き継続審査が望ましいかと思えます。

○委員長（石野田 浩）ただいま継続審査の意見が述べられましたが、ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）ただいま本請願を継続審査にしてはという声がありますので、ここで起立によりお諮りいたします。

本請願を継続審査とすることに賛成する委員の起立を求めます。

[賛成者起立]

○委員長（石野田 浩）起立多数であります。よって、本請願は、継続審査とすることに決定しました。

なお、委員長において継続審査の申し出を議長にいたしますので御了承願います。

以上で、本請願の審査を終了します。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）観光・シティセールス課の所管事務調査でございます。

産業建設委員会資料12ページをお開きください。

平成30年度の観光・シティセールスに関する取り組み状況について、主な点のみ説明をさせていただきます。

1の観光誘客では、（1）の明治維新150周年関係を10月14日、西郷隆盛銅像の除幕式、西郷どんトークショー等を行っております。

（2）特定有人国境離島地域社会維持推進事業につきましては、甌島滞在型観光事業、国の交付金事業を活用をいたしまして甌島への個人向け滞在型旅行商品を開発し、発売を開始したところがございます。商品名は、こしき旅フリーチョイス、平成30年12月7日から平成31年3月15日までの事業でございます。

次に、下のほう大きな2、物産販売の催事・観光PRの主なところですけれども、一番下の3月3日、第15回関西かごしまファンデーが、こしは例年4月に行われたものが3月に開催されるということで連絡が来ているところがございます。続きまして、13ページに入ります。

3のシティセールスプロモーションでは、（3）の情報発信でございますが、薩摩川内市のインスタグラムを12月5日にスタートしたところがございます。

4番目のシティセールスマネジメント、（1）ぽっちゃんプロジェクトにつきましては、現在隊員が7名でございます。

続きまして、（2）薩摩國シティセールス大学では、ことし2年目となりまして、地域づくりのさまざまな取り組みを他の地域に紹介するということと、地域の取り組みの士気を高めるということで、10月25日から26日に、まち・くらしデザインキャンプを開催し、初日50名、2日目47名の受講参加者を得たところがございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これを含め、これより所管事務全般について御質疑願います。

○委員（上野一誠）ふるさと納税68事業者、返礼品数408品とあるんですが、これは主に、この行為をお願いしているのはどこですか。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）この行為というのは、この取り組み状況の事業につきまして行っているのは、観光物産協会に依頼をしているところがございます。

○委員（上野一誠）金額で言えば、約7,500万円ぐらいという捉え方でいいですか。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）昨年の実績で言いますと、8,985万円ぐ

んか。向こうのほうは何名ぐらい来られるんですか。

○観光・スポーツ対策監（坂元安夫）出席の状況については、その対象の方々の話は今、取引企業を含めてという話は聞いておりますけれども、最終どういふ方々が出席されるというところまでは、申しわけございません。確認はとってございません。

○委員（下園政喜）済いません。しつこく聞きますけど、何か役員が知らないことが、会社が動いておるようで、どうもその辺が納得しないようなことなんですけれども、それで役員がやっているのというような気もするんですが、その辺はどうなんですか、権限はないんですか。

○観光・スポーツ対策監（坂元安夫）今のその御意見については、どういふことをするというのは、結果としては聞いてございます。どういふことをいつやるといふことは聞いておりますので、そういう意味では聞いておるんですけども。今回の場合は、附帯決議につきましても、我々のほうも市の当局に対するというふうには聞いてございますので、直接そのことに関してどういふことをいふのは言っていないところです。役員でありますけれども、直接言っていないところです。

○委員長（石野田 浩）ここで、休憩します。意見とか、精査しなきゃいけない部分があるような気がするんで、休憩をいたします。再開は45分にいたします。

~~~~~

午後3時34分休憩

~~~~~

午後3時44分開議

~~~~~

○委員長（石野田 浩）休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

先ほど下園委員の発言の中に、委員が勘違いをされていた部分があるやに聞いておりますので、1回説明をしていただきたいと思います。

○委員（下園政喜）10月4日付けの附帯決議を何回も何回も協議をして出したところ、本市から株式会社薩摩川内観光物産協会の委託事業については、少なくとも19件、総額2億円以上の多額に上がり全て同社との1者見積もりによる随意契約になっておるといふくだりの中をずっと頭の

中に入れておりましたので、この19件が全て見積もりと落札が一緒なんだろうと考えておりましたので、先ほど_____という言葉を使ってみましたけど、この発言の取り消しをお願いしたいと思います。

○委員長（石野田 浩）ただいま下園委員から、発言の取り消しについて申し出がありましたので、ここで、委員の皆様にお諮りいたします。

この発言の取り消しを認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員（上野一誠）ちょっと確認だけでも、前委員長として、今あったくだりについては、一応議決発議をされたわけだから、その時点においては、当初に、最初に発言をされた状態のままで発議をつくられたという理解は間違っていたというような解釈でいいのかな。

○委員（下園政喜）それから日にちが大分たっておりますので、ずっと葛藤をしておりましたので、その辺がごちゃごちゃになっておりました。申しわけありません。

○委員長（石野田 浩）御理解いただけますか。

○委員（上野一誠）わからんけども、いいや。

○委員長（石野田 浩）それでは、ほかに御意見ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

委員外議員の方はありませんか。

○議員（落口久光）ふるさと納税について、もう12月になったので、もしわかれば11月末ぐらいまでの実績で、どのぐらいの進捗になっているのかというのがもしおわかりだったら。

9月議会で補正を組まれています。たしか私の記憶では4億8,000万円を達成するためにというのがあられたと思うんですけど、それに対してどのぐらい金額がいつ、進捗率が何%で、月の進捗でいったときに、どのくらいおけているというのがわかればお願いします。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）12月17日までの実績のところまで御回答をさせていただきたいと思います。

現在、ふるさと納税額、入金ベースで1億

1,162万1,000円でございます。昨年ベースの同月で言いますと97.7%の状況でございます。

○議員（落口久光）多分、補正の上の効果が出るのはすぐじゃないと思うんですけど、実際見通しとしたら3月末まででどのぐらいいきそうなんですかね。

○観光・シティセールス課長（有馬眞二郎）補正につきまして9月議会でいただきまして、おかげさまで9月から前年を上回るふるさと納税額をいただいているところでございます。9月から11月までで言いますと、前年を、その単月で言いますと1,175万円ほどの上回っている状況でございます。

12月過ぎますと大まかな目安が出てくるかというふうに考えております。その中で総体のふるさと納税額の見込みが確定するのではないかとというふうに考えているところでございます。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）以上で、観光・シティセールス課を終わります。

△スポーツ課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、スポーツ課の審査に入ります。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算（第3回）

○委員長（石野田 浩）それでは、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題いたします。

当局の補足説明を求めます。

○スポーツ課長（花木 隆）第3回補正予算書の67ページをお開きください。

当課分は、10款6項1目保健体育総務費、事項、スポーツ振興事業費の補正額は330万円の増額であります。

予選会を勝ち抜き、県代表としての権利を獲得した個人または団体に、九州大会や全国大会の出場に要する旅費及び宿泊費の一部について補助を行うスポーツ振興補助金に不足が見込まれることから、補正を行うものであります。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明

がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員会外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

ここで、議案第139号の審査を一時中止いたします。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次は、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○スポーツ課長（花木 隆）スポーツ課の所管事務につきまして説明いたしますので、産業建設委員会資料、商工観光部の14ページをお願いいたします。

まずは、1、スポーツ合宿の状況についてであります。

（1）年度別スポーツ合宿状況につきましては、平成30年度の合宿団体数は、11月末時点で51団体であります。

次に、（2）9月以降の主なスポーツ合宿実施団体であります。バレーボールチームや陸上チーム、また、韓国プロ野球チームが合宿を行っております。

次に、（3）今後の主なスポーツ合宿予定団体であります。実業団や大学の陸上合宿、大学の野球合宿やバレー合宿が行われる予定となっております。今後も合宿誘致活動を積極的に展開してまいりたいと考えております。

続きまして、2、2020年度の市民運動会についてであります。

鹿児島国体の開催との関係で、2020年度の市民運動会の方針について、市民運動会運営委員会で協議がなされ、中止の方針が決定され、この方針に基づき、主催者であります市において、2020年度に限り市民運動会を中止することといたしましたので、御報告いたします。

続きまして、15ページ、3、第29回全国市町村交流レガッタ大会についてであります。

全国市町村交流レガッタ大会が、2020年度に川内川漕艇場で開催されることが決定いたしました。

(1)に過去2年と今年度の開催経過、2年後までの開催予定を掲載してあります。来年度が大分県日田市、再来年度が本市での開催となります。

なお、例年9月に開催されております。参加チームも100チームを超え、約1,000人以上の参加が見込まれる規模の大会となっております。

(2)の競技種目及びチーム構成(案)でありますが、競技種目はナックルフォア艇による漕艇競技であります。

チーム構成(案)につきまして、例年このようになっておりますが、議会議員の部と議会議員シニアの部もございますので、2020年度につきましては、ぜひ議員の皆様方もチームをつくってレガッタ大会に参加していただきますよう、よろしく願いいたします。

(3)に全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村32の市町村を掲載してあります。

以上で、所管事務の説明を終わります。

○委員長(石野田 浩) ただいま当局の説明がありました。これを含め、これより所管事務全般について御質疑願います。

○委員(上野一誠) この後の国体推進課も関連するんですけど、やはり、本市がスポーツ振興に力を入れていくということは大変大事なことで、地域振興というか、地域の発展にも大きく寄与している部門に当たるといふふうに思います。

多くの人が交流とか含めて、その中には青少年の育成とか、いろんなこともかかわっていらっしゃると思うので、できるだけ競技人口というか、そういうものについても機会をつくっていただきながら、より、競技に対する関心を高めていただいて、そういう子どもたちをしっかりとまた前に出していけるような取り組み等も含めて、ぜひ、ひとつ努力をしていただきたいといます。

だから、あとは国体推進課でちょっと意見を言いますが、かなりのイベント、イベント、あるいはオリンピックがあり、国体が入っていくので、その年だけがずっと入って行って、あとがしょぼんと下げるようじゃいかんので、そういうことも含めて、ぜひ、所管部としては、課としては鋭意、

市民の健康づくりはもちろんだけど、やっぱり人材育成というか、競技力のアップというのを、体育協会を含めて努力はさらにしていただきたいなということ、意見を、要望として申し上げます。

○スポーツ課長(花木 隆) 本市の総合計画の中で、生涯スポーツの推進、競技スポーツの振興、また、今おっしゃられたスポーツ振興による地域の活性化、この三つを掲げて、具体の施策を展開しているところでございます。

特にスポーツ合宿団体による紅白試合、あるいはスポーツ教室の開催等につきましては、トップアスリートの練習を観覧できる機会をジュニアに創出することができる、それが教育の向上や施設の有効活用につながるということで、展開を進めているところでございます。

○国体推進課長(田中英人) ちょっと国体との関連もあるということでもございましたので、私のほうからも、各競技種目については、国体については御承知のとおり5競技でございますので、これに関連したイベント的に国体フェスタ、実は昨日、先週の土曜日やったんですけども、それと、スポーツフェスタということで、国体協議に関する競技についての、その競技に触れ合う機会であるとかいうことを含めまして、そういうイベントをやっておりますので、引き続き、できれば来年度も含めて、競技人口増であったり、御意見のとおり、そういう機会をつくっていききたいというふうには考えてございます。

それと、各競技においてのその人材育成、あるいは、その競技人口増の部分については、それぞれの競技団体も担っていただいておりますので、一緒になって、少なくともそういう団体とも一緒になって取り組んでいきたいというふうにご考えてございます。

○委員(松澤 力) 私は市民運動会についてだったんですけども、2020年は中止ということで、資料にあるとおりでと思うんですけども。市民の方から御意見をいただいて、ことしの市民運動会は、残念ながら天気の影響で中止ということもあったかと思うんですけども、地域の方、市民の方、練習を前々からされて、一生懸命取り組んでいたということで、非常に残念な思いをされた方も多かったんですけども。

この市民運動会の運営委員会、こちらでいろいろ

る開催について話し合われているとは思いますが、天気の関係でなかなか難しいところもあると思うんですけれども、市民の方の要望としては、一生懸命されているからこそ、できるだけ中止にならないような形の運営というか、仕組みというか、何か工夫はできないのかというような意見を結構たくさんいただいて、どうしても甌島の方の船の関係とか天気の関係というのは難しいところもあると思うんですけれども、何かこの運営委員会の中で、今後のあり方とか、開催に向けてということが何か話し合われていることがあれば教えていただけたらと思うんですけれども。

○スポーツ課長（花木 隆）まず、市民運動会の実施につきまして、要綱の中で、天候不良などによって甌島4地域が参加できない場合は中止としますよという部分があって、これに乗っかって、台風25号の場合、直接的な上陸はなかったんですが、どうしても甌島商船のほうに欠航が決まっていたので、甌島からの市民が来れないということで中止にさせていただきました。

これにつきまして、市民運動会運営委員のほうにも協議をしたんですが、特にこれといった意見はいただかなかったところがございます。

○観光・スポーツ対策監（坂元安夫）これまでの経緯の中で、できるだけ開催できないかというのをございまして、課長のほうから説明があったとおり、実は今そういうルールがきちっとできています。

それ以前は、アリーナを活用した、雨天の場合はアリーナでやるというルールもございました。ところが、結果としまして、実施したことはないんですけれども、実際やるとなると、かなりやっぱり運営上難しいというのが結果としてわかってきました、やはり、その雨天で、例えば実施できない場合は中止という考えをすべきだろうという経過を経て今こういうふうになってございます。

それと、ありましたとおり、その地域が、全市の地域が参加しない市民運動会であるのかというの御意見等もあって、結果として今そういう運営委員会の要綱の中できちっとじゃあうたいましようという経過を経てこうなっておりますので、そこのところはちょっと御理解をいただきたいと思えます。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の方はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、スポーツ課を終わります。

△国体推進課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、国体推進課の審査に入ります。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）それでは、議案がありませんので、所管事務調査を行います。

まず、当局に説明を求めます。

○国体推進課長（田中英人）それでは、国体推進課の所管事務について御説明いたしますので、商工観光部、産業建設委員会資料の16ページをお開きください。

第2回国体スポーツフェスタ in さつませんだいの開催についてでございます。

一昨日の15日土曜日に第2回国体スポーツフェスタ in さつませんだいを開催いたしました。当日は国体応援団がコンクールの表彰、社会体育功労者等の表彰の後、横浜高校公式野球部終身名誉監督の渡辺元智氏のスポーツ講演会に600人を超える入場がございました。

その後、国体ダンスの披露及び講習会、国体本市開催競技の6競技の体験をしていただき、野球においては、市内小・中・高校生を対象に、渡辺氏の直接指導をいただいたところでございます。

他の競技につきましても、国体出場者等により直接指導や演技披露等を行い、盛会のうちに終了いたしました。

国体応援団画コンクールの受賞者につきましては、標記のとおりでございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありました、これを含めて、これより所管事務全般について御質疑願います。

○委員（上野一誠）国体推進課に当たっては、部長、課長以下職員が一生懸命それに向かって対応をしている現状にあると思えます。それで、か

なり競技団体との連携を図りながら、よりいい形になるようにという努力は一応理解しております。

手前どものことで申しわけないんですけど、きのうも我々ウエイトリフティングの鹿児島県の審判講習会も鹿児島市であったので、それにわざわざ課長以下職員も来てもらって、積極的に選手とか、そういう役員とも連携をとってもらっているなどということは大変ありがたいと思っております。

その中で、今回、国体スポーツフェスタということで、野球に携わった監督を講師に呼ぶということは、やはり子どもたちにとっても国体につながる、やっぱりそういう一つの講師の先生かなというふうに思っているのですが、今回を入れて六つということになるんでしょうけど、やはり、こういう講師の選び方も、何らかの形でそういう競技につながるような講師を選んで、いろいろと努力はしていただきたいなというふうに思っています。

多分、この中でいろいろ競技団体も出てきて、いろいろ競技も披露をされながら、子どもたちがかなり携わってくれたとは思っているので、先ほどスポーツ課のほうで申し上げたとおり、子どもたちの競技に対する環境ということが、やはりこういうものを通して大事かなと思っておりますので、より今後もこういう努力はしていただきたいと、意見、要望として申し上げておきます。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の方、御意見ありませんか。

○議員（森満 晃）この土曜日の国体フェスタのほう、私も講演会のほうに参加させていただきました。横浜高校の終身名誉監督ということで、すばらしいお話が聞けたのかなと私自身も思いました。

そういった中で、今、先ほどありましたように600名ということで、会場が広がったからちょっとしかなかったのかなという形で、競技は別としまして、野球部の子どもさんたち、あるいは保護者、指導者、薩摩川内市、全ての方が来られていたのかなというのもあるって、せっかくのこういう講演会で、もっと、周知ができたのかなと。周知されたんでしょうけれども、そういった意味で

は、野球以外にもいろいろと精神的な面で勉強になる部分があったんじゃないのかなと思って、そういうところは感じるころでした。

その辺の野球的なものはどうなんです。北薩地域の方々に周知されたりとか、その辺をちょっと説明ください。

○国体推進課長（田中英人）市の軟式野球連盟を中心に周知のほうを図ってきたところですが、今回、横浜高校 ― 高校の指導者ということで、市内の高校であったり、近隣のさつま町の薩摩中央高校からもお見えになられて、実際に講演会のほうを聞いていただいたところがございます。

森満議員がおっしゃるように、周知のところだったんですけども、新聞広告であったり、ラジオ出演等をして、多くの反響はあったんですけども、体験のほうから参加すると、ほかの競技の方々がというのもありまして、もうちょっと講演会から出ただけのように、今後そういう形をする場合は、私たちのほうも手法を考えていきたいと考えております。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、国体推進課を終わります。

△施設課の審査

○委員長（石野田 浩）次は、施設課の審査に入ります。

△議案第134号 薩摩川内市コンベンションセンター条例の制定について

○委員長（石野田 浩）まず、議案第134号薩摩川内市コンベンションセンター条例の制定について、これを議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○専門職（中島弘喜）それでは、商工観光部、議会資料の3ページをお願いいたします。

条例の趣旨、それから、名称、管理形態等につきましては、資料に記載のとおりでございます。

開館時間等につきましては、川内文化ホールと同様に午前9時から午後10時まで、毎月第3日を休館日という規定にしてございます。

使用料についてでございます。多目的ホールでございます。多目的ホールにつきましては、同種の機能を有します類似施設の平均使用料の金額を基本額に設定をし、市民の皆様が御利用になる場合には、この基本額の2分の1に設定したいという考えです。

資料の4ページをお願いいたします。

ホールの利用の形態によりまして、表にございますとおり、平日、休日、入場料のあるなしというところで、使用料の割増しも表のとおり設定をしているところでございます。このような考え方で、ホールの1時間当たりの使用料を二つ目の表にお示しをしております。

次に、会議室の使用料でございます。会議室につきましては、市内にございます公共の会議室の使用料と統一化、整合を図った料金設定という考えでございます。これにつきましても、市民利用と市民以外の利用につきまして、市民以外の方の御利用につきましては、市民の2倍の料金設定ということにしております。下の表に、会議室の規模に応じました1時間当たりの使用料を記載をしております。

資料の5ページをお願いいたします。一番上に楽屋の使用料をお示ししておりますが、御確認をいただきたいと思っております。

冷暖房の使用料についての考え方でございます。多目的ホールにつきましては、電力消費量などから実費相当額で料金設定をしております。会議室につきましては、使用料と同様に、市内にございます公共施設と水準を合わせ統一化を図っているという考えでございます。

次に、附属設備の使用料についてでございますが、下の表にございますとおり、それぞれの設備に応じまして、使用料の上限価格を条例で規定し、詳細の種々の料金設定につきましては、規則に定めさせていただきたいという考えでございます。

資料の6ページをお願いいたします。

駐車場の使用料でございます。管理型駐車場を想定してございますが、施設の利用者につきましては、原則3時間を使用料無料という考えでございます。この時間を超過した分、また、施設利用者でない方の駐車場利用につきましては、川内駅西口の市営立体駐車場と同様の料金設定にしたいという考えでございます。

これらの使用料につきましては、減免規定も設けることとしてございますが、資料に記載してございますとおり、川内文化ホールと同様の内容で規定をしたいという考えです。

最後ですが、これからのスケジュールでございますが、来年6月の市議会におきまして、指定管理議案を提案させていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上で、説明を終わらせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありました。これより質疑に入ります。御質疑願います。ありませんか。

○委員（持原秀行） 1点だけ、考え方をちょっとお聞きしたいんですが。この4ページの多目的ホールとか、この基本額とか、ここの中で、私はいつも不思議に思うんですが、平日と休日の差は、なぜこうつけなければいけないのかというのを教えてください。

○専門職（中島弘喜） これにつきましては、文化ホールにつきましてはこの規定はございませんでしたけれども、今回、料金設定をいろいろと考え方を整理する中で、いろいろなところの類似の事例とかを調査をいたしました。

その結果でございますけれども、やはり、イベントが休日に集中するということ避け、平日の利用促進を目指すということからと思われるけれども、ほとんどの類似施設がこういう平日と休日の料金設定の差をつけていらっしゃいます。今回は、私どもも新しいホールで、そういう考え方に倣ったところでございます。

○委員（持原秀行） 例えばいろんなホテルとかということの中で、いろんなイベントをされる、祭日とか、土曜日曜とか、何かつきますよという、何かプレミアム的なものはわかるんです。

ただ、その混雑とか、平日に持っていたきたいとかって、そういう中では、1年を通して利用していただきたいという中で、何のサービスも付加されないのに、こういう差をつけるというのは、僕はいかなものかなと思うんですが、他の類似施設がこうやっているからこうしましたということだけでは、ちょっと納得できないんですけど。

もうちょっとしっかりとやらないと、例えば休

日とかになれば、何か付加価値がありますよとか、そういうのであればわかりますよ、何もないわけでしょう。そういう中でこういう差をつけるということを、ほかのところがやっているからということですと出してくるというのがどうも腑に落ちないんですが、いかがですか。

○専門職（中島弘喜） 御指摘もごもっともかとは思いますが、どうしても、施設ができ上がりましたら全体の稼働率も上げたいということもございませうけれど、この付加価値が正解かどうかはわかりませんが、多少の料金抵抗とかいうことも含めながら、また、休日に利用がブッキングするということ等も想定をしながらになりますけれども、できるだけ平日の利用をふやしたいという私どもの考え方もございまして、そういったことを他市の例と照らして、最終的にこの割り増しを設けたほうがよいのではという決断をしたところではございます。

○委員（持原秀行） そうであれば、まだ差をつけるべきです。そういう考え方でいいのであれば、微々たる差です。

だから、常に予約をとってするわけですから、それは予約が殺到しても平準化はされる、これはアリーナと一緒です。そういう意味では、ここは、こういう差をつけ方というのは、そうであれば、利用を平日にさせていただきたいというのであれば、もっと上げるべきじゃなかったですか。そういう考え方であればです。

だから、押しなべて言えば、全員参加していただきたい。どうせ抽選でするわけでしょう、ブッキングしたら。その中でこういう差をつけるというのは、私はちょっと合点がいかないですが。

○商工観光部長（古川英利） 今この料金設定については、庁内でもかなり議論がありました。参考事例は参考事例で、私どもとしてきっちり議論したんですけども、需要と供給の関係で料金設定というのはあるべきではないかということで、平日利用を促すために、ある程度の差をつけましょうということで議論をして今回提案させていただきました。

ただ、その中でも、実際あったんですけど、1.0倍、1.2倍、1.5倍、この辺の感覚です。これは、今、持原委員もおっしゃったような、もっと差をつけてもいいんじゃないかというような

ところはあったんですが、今、川内文化ホールよりも1.5倍の利用を促していこうというような考え方で、とにかく利用者をふやそうというところもありますので、こういった提案になった次第です。

課題としては、おっしゃるように、平日利用を促すためだけのこの料金設定の1.2倍とかいうのが妥当かどうかというのは課題であるとは思いますが、スタート時点としてはこういう形で進めさせていただきたいというふうに考えておるところです。

○委員長（石野田 浩） ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博） コンベンションのことで、もともとはコンパクトシティの考え方、コンパクト化、人口減少のもとで、拠点をつくり、にぎわいをつくるという考え方から位置づけられているわけですが、よく心配されるのはコンベンションのほうには、にぎわいはあるけれども、外にそのにぎわいがいかないんじゃないかという心配というのは、やっぱり説明会でも出されたと思うんです。

それに対して、にぎわいの創出の波及効果が出るようにしていくんだというお話でされていると思うんですけども、例えば、国の考え方ですけども、地方拠点都市というのは、鹿児島県では鹿児島市が地方拠点都市ということで位置づけられて、鹿児島市がにぎわえば薩摩川内市もにぎわうかという、そうとは言えない面もあるわけです。

それと同じように、コンベンションのところのにぎわいがあれば、ほかがにぎわうのかというと、それは相当なことをしないと波及効果というのはないと思うんです。その辺の波及効果が本当にあるのかということについては、どれだけ自信を持っていらっしゃるのかということをお尋ねしたいと思います。

○商工観光部長（古川英利） 議員おっしゃるのは大きい課題でございまして、回遊性 — 説明会でもちょっと説明してもらったんですが、市街地の回遊性、それから、周辺に対するその宿泊の波及効果、それを私どもは大きな課題と思って

おります。

ただ、これだけは行政とかSPC、薩摩川内MICE、事業者が言ってもなかなか実現しないということですので、そのパートナーになる中心市街地の商店街の方々、それから、周辺の宿泊施設の方、そういった方々のやっぱり思いとか、それから、実際に行動をするという部分に比例すると思っていますので、今時点で、私どもだけで自信がありますというのは、ちょっと言い切れないところです。

ただ、例えば、市比野の宿泊施設の方は、連携しましょうということで、コンベンションに来た方をどう誘導するかって、具体的に提案される事業者さんもいらっしゃると思うので、そういう前向きに捉えている方もどんどん話を進めたいと思っていますし、自分たちの役割がまだよく整理できていない商店街の方とかもいらっしゃると思うので、そういう方々との意見交換も続けていきたいというふうに考えているところです。

○議員（森満 晃） この多目的ホールの使用料について、説明がありましたけども、実際これを使用するに当たって、そのいろんな諸団体、一般市民もそうなんですけども、その申し込み方とか、あとはその抽選の仕方とか、そういった部分で、現時点で何か決定している部分がありますか。

○専門職（中島弘喜） 現時点ではっきりしていることについて申し上げますと、オープンの前1年ぐらい前を見据えまして、予約開始ができるような準備を、事業者であります株式会社薩摩川内MICEのほうで進めております。おおむね来年の7月ぐらいから施設が予約できるようなシステムですとか、ホームページが立ち上がっていくことを予定してございます。

それから、予約の際、先ほどのかぶった場合だと思いますが、その抽選の方法ですとか、そういった詳細の部分につきましては、済いません。今時点ではまだ明確な方法が固まっておりませんので、改めて御報告なりさせていただきます。

○委員長（石野田 浩） ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑は尽きたと認めます。

これより討論、採決を行います。討論はありま

せんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第135号 観光船かのこの指定管理者の指定について

○委員長（石野田 浩） 次に、議案第135号観光船かのこの指定管理者の指定についてを議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○施設課長（園田克朗） 商工観光部の議会資料の16ページをお開きください。

指定管理者に管理を行わせる施設は、観光船かのこのございまして、平成31年4月1日から平成36年3月1日まで委託料制で指定管理するものでございます。

3の指定管理候補者は、合同会社甌幸葉海上でございまして。

4の当該指定管理候補者が示した事業計画の概要につきましては、記載のとおりでございますので、お目通しいただきたいと思っております。

続きまして、次のページになりますが、5の選定経過の概要でございます。

民間事業者3社から応募申請があり、10月29日に利用者代表、地元代表、有識者など7名を委員とした選定委員会を開催し、19ページに示してありますように、600満点中501点で合格基準点を上回り、また、総合点数が最も高く、適切な管理運営が期待できることが見込まれるため、指定管理候補者として選定されたものでございます。

○委員長（石野田 浩） ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩） 質疑はないと認めま

す。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

これより討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第139号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算（第3回）

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第139号を議題といたします。

当局の補足説明を求めます。

○施設課長（園田克朗）それでは、第3回補正、予算に関する説明書の33ページをお開きください。

2款1項6目企画費、事項、コンベンション施設整備事業費でございます。コンベンション施設の愛称募集を行うため、委員謝金、チラシ作成等の経費でございます。

次に、同ページの8目国際交流費、事項、国際交流施設等管理費で、工場検査に係る旅費でございます。

次に、67ページをお開きください。

10款6項2目体育施設費、事項、総合運動公園管理費で、総合体育館の空調機器にふぐあいが生じたことから修繕を行うものでございます。また、総合運動公園及びスポーツ交流研修センターの利用者増に伴う維持管理経費の増に伴う指定管理委託料の増額分でございます。

次に、その下の事項、スポーツ施設管理費で、川内プール滅菌機器や樋脇グラウンドの照明などの修繕にかかわる経費でございます。

次に、70ページをお開きください。

11款4項1目現年公用公共施設災害復旧費の施設課分は全額で、台風19号により上甕島の田ノ尻展望所から長目の浜につながる遊歩道が損壊したため、復旧工事を行うものでございます。

次に、歳入について説明いたします。18ページをお開きください。

14款1項7目教育使用料でございます。5節保健体育使用料で、総合運動公園及びスポーツ交流研修センターの使用者数が増加していることから、使用料を増額するものでございます。

次に、8ページをお開きください。第3表繰越明許費の下から3段目の総合体育館空調機器等修繕事業及び最終行の現年公用公共施設災害復旧事業費の2件の繰越明許でございます。

次のページ、9ページをお開きください。第4表債務負担行為補正では、一番上の行の、先ほど御審議いただきました観光船かのこの指定管理者の指定管理料にかかわる分でございます。

○委員長（石野田 浩）ただいま当局の説明がありましたが、これより質疑に入ります。御質疑願います。ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑はないと認めます。

以上で、議案第139号平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算のうち、本委員会に付託分について質疑が全て終了しましたので、これより、討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、議案第139号の本委員会付託分については、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△議案第152号 平成30年度薩摩川内市一般会計補正予算（第4回）

○委員長（石野田 浩）次に、審査を一時中止しておりました議案第152号を議題といたします。

本案については、先ほど質疑が全て終了しておりますので、これより、討論、採決を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）討論はないと認めます。

これより採決を行います。本案を原案のとおり可決すべきものと認めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、議案第152号の本委員会付託分については、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

△所管事務調査

○委員長（石野田 浩）次に、所管事務調査を行います。

当局から報告事項はありませんので、これより所管事務全般について質疑に入ります。御質疑願います。

○委員（松澤 力）済いません。1点だけ施設のことについて伺いたいと思います。

体育館の使用の中で、ちょっと市民の方から言われましたフットサルで使うケースというのが体育館でもあると思うんですけども、施設によっては、ほかのフットサルをされる方も使っていたきたいという思いはあるんですけども。

結構そのボールが、あちこちその屋根のほうに行って、屋根が壊れたりとか、場合によってはガラスが割れたりとか、あと、体育館の床もかなりそのシューズの跡とかで相当荒れると言っているのか、あれなんですけれども、そのあたりで、フットサルだけではないのかもしれないですけども。

ほかの施設管理とか、ほかのスポーツの方とか支障があるようであれば、そのルールとか、いろんな対策も考えないといけないのかなというよう

な意見だったんですけども、現状そういったフットサルの利用での支障とか、そういった声とかは出ていますか。

○観光・スポーツ対策監（坂元安夫）非常にフットサルについては今御意見のとおり、その施設が整っていない部分もございますので、壁に当たったら傷がつく、あるいは床も、かなりやっばり激しい運動になりますので、激しいというのは実態としてございます。

施設管理側としては、一定のそのルールを決めて利用させています。例えば、総合運動公園であれば、できるだけアリーナのほうは使用しないような状態で、屋外練習場を使っただけでございます。というのがまず1点。その利用者の調整をしているという部分と、あと、どうしてもやっばり地域によっては体育館しかございませんので、利用を認めておりますけれども、ネットを張るとか、そういう防御策はやっております。

ただ、全部がやはりそのネットを張りめぐらすというのはやっぱり整ってはおりませんが、そういう対応をとりながら、できるだけ利用者の使える方向で今使っただけでございます。

○委員（松澤 力）そうですね。今対策を講じていただいているということだったので、フットサルの方はもちろん楽しんでいただきたいという思いはあるんですけども、ほかのスポーツの方、市民の方が問題に思うという部分があれば、随時是正したり、また、ネットを強化するとか、施設が長く安全に使われるような対策を講じていただくように、今後も対応をいただけたらと思っておりますので、よろしく願います。

○委員（下園政喜）建物の無償譲渡についてお聞きいたしますが、何回も聞いておってなんですが、藺牟田池のほりにありますいむた清風が入っておった建物が今公募されておりますけれども、見に来られた人のほとんどが、撤退するときこの建物を解体しないといけないという条件がなければやるんだがなという方がいらっしゃるんですけども、やっぱりそれはつけないかのか、あの解体をおたくちはどのくらいかかると見越しているのか、わかっていたら教えてください。

○施設課長（園田克朗）今回、公募はかけておりますので、今で変更をするということはちょっとできないところで、募集期間が2月末までと

しておりますので、その状況を見ていきたいと考えているところでございます。

解体費につきましては、約2億5,000万円程度はかかるということでの試算はしているところで、そのためにも無償譲渡というような位置づけになっている考えでやっているところでございます。

○委員（下園政喜）莫大なお金がかかりますが、それよりも、その2月の締め切りまでになかった場合、その応募がなかった場合は、それを解く、その解体せんでもいいよという、そういうのがつくということが考えられますか。

○商工観光部長（古川英利）おっしゃる声は私どものほうにも届いております。2月までは今のルールでさせていただきますが、その間寄せられた意見等を庁内でもう1回議論しながら、今後の取り扱いを検討したいと思っております。

条件を外しているかという部分は問題点の一つではあるんですけども、また、そこでもいろんな条件が出てきたりとか、特に施設があと20年ぐらいたつとかなり老朽化する、そういったときの撤退のリスクの話、そこまで検討材料にはさせていただきますというふうに考えています。

以前の無償譲渡の案件であったのは、募集期間を延ばして、あとは企業誘致方式で個別というようなやり方もあったんですけども、今回の場合はそういうのがちょっとなかなか難しいんじゃないかと、募集条件を変えるところがあって、改めて仕切り直しというのも含めて、今いろんなお声を集めている状況であります。

○委員（下園政喜）ぜひ、そういうことを検討していただきたいなど。建物が40年たっておりますので、建物自体は国でつくられた建物で、非常に頑丈にできておると思うんですが、中の設備、電気、水道、お湯を含めて、いつまでもつかかわらんと。それを引き受けるのは初期投資が相当かかるらしいです。それも含めて、それが途中でだめだったら、また修理していくのかっていうのがありますので、ぜひ検討していただきたいと思っております。

○委員長（石野田 浩）ほかにありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

次に、委員外議員の質疑はありませんか。

○議員（井上勝博）樋脇地区コミュニティ協議会からも要望がある体育館のどんちょうの問題です。600万円かかるから難しいという回答がされているんですが、別にそのどんちょう自身を変えてくれということではなくて、どんちょうがおりにないということですから、モーターのどっかが壊れているのか何だかわかんないですけども、600万円という金額は余りにもちょっと、どうしてそうなのかと。内訳を知りたいということもあるんですが。

どんちょうそのものは古くてもいいから、とにかくおりにあるということができればいいということなんです。その辺についてどうお考えなんですか。

○施設課長（園田克朗）今の御意見につきましては承知しておりまして、地区コミュニティ協議会、樋脇地域まちづくり懇話会でもちょっと話題になったところでございます。

利用回数といたしましては、年に数回程度しかどんちょうの利用はないという実績があるということ。それと、機械的なもので、600万円の内訳、どんちょうを変えるということでの600万円ではなく、モーター駆動になっておりまして、それらの取りかえに係る費用が600万円ということで、どんちょう自体を持ち上げるための機器の修繕が600万円かかるということでございます。

今、何らかの方法でいい手だてがないかということのをいろいろと検討はしているところでございますが、今すぐに対応できないところの実情はございます。

○議員（井上勝博）確かに使用頻度が、体育館だから、文化ホールのな使い方はしていないもんですから、使用頻度がこう少ないと。入来も文化ホールがあるし、東郷にもあるから、樋脇で文化的なことをやる方は東郷に行ったりとか入来に行ったりとかということで、本当だったらその樋脇でも使いたいという要望はあるわけで。

やっぱり体育館と文化ホールが、あそこはそれしかないわけで、そこでどんちょうがおりにないとなると、落語とか、演劇とか、そういったものは、さまにならないというのがあるわけで、そういった点は御考慮願いたいと思っております。

○委員長（石野田 浩）何かありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）ほかの方はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）質疑は尽きたと認めます。

以上で、施設課を終わります。

△委員会報告の取り扱い

○委員長（石野田 浩）以上で、日程の全てを終わりました。委員会報告書の取りまとめについては、委員長に一任いただきたいと思います。そのように取り扱うことで御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）異議なしと認めます。よって、そのように取り扱います。

△閉会中の継続調査の取り扱い

○委員長（石野田 浩）次に、閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付のとおり、閉会中の継続調査を議長に申し出たいと思いますが、そのように取り扱うことで御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）異議なしと認めます。よって、そのように決定いたしました。

ここで、協議会に切りかえます。

~~~~~

午後4時43分休憩

~~~~~

午後4時45分開議

~~~~~

○委員長（石野田 浩）ここで、本会議に戻します。

△閉会中の委員派遣の取り扱い

○委員長（石野田 浩）次に、閉会中の委員派遣についてお諮りをします。

ただいま協議会において閉会中に現地視察を実施することになりましたが、委員派遣の手続については、委員長に一任いただきたいと思います。ついては、そのように取り扱うことで御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（石野田 浩）御異議なしと認めます。よって、そのように決定いたしました。

△閉 会

○委員長（石野田 浩）以上で、産業建設委員会を閉会いたします。

薩摩川内市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

薩摩川内市議会産業建設委員会
委員長